

渋谷ハロウィーンの原点とは

佐々木 隆

プロローグ

筆者はポップカルチャーとハロウィーンを結び付けた研究（佐々木 a 1-6）からはじめ、最近ではコロナ後の通称「渋谷ハロウィーン」について「渋谷ハロウィーンを振り返る—その変遷と時流—」（佐々木 e 1-75）において「1 日本のハロウィーン概略史」「2 日本のハロウィーンの定着度合い」「3 渋谷とハロウィーン」「4 渋谷ハロウィーンにおける新聞記事（2018 年&2019 年、2023 年）」「5 マスコミにおける筆者のコメント」「6 注目されるスクランブル交差点」の内容で考察した。本稿では、「3 渋谷とハロウィーン」をさらに精査して渋谷ハロウィーンの原点について改めて考察する。

ここでは日本のハロウィーンを受容状況と若者が集まる渋谷の状況に焦点に当てる。

1 今回の考察について

渋谷ハロウィーンは主催者なしで自然発生的に大勢が集まることが大きな特徴であり、そこにお酒の力が加わり、自制力がなくなり、大きな騒動に発展することがある。「集団がその構成員である個人に影響を与えて、個人の自発的な感情を抑制し、集団全体の意思に呼応して変化していく個人の心理（茶谷 8）」である群衆心理に言及してくこともあった。渋谷ではハロウィーンの時期になると「主催者なしで自然発生的に大勢が集まる」とことから、2019 年には渋谷駅周辺地域の安全で安心な環境の確保に関する条例での規制なども行われるようになったが、自然発生的に大勢が集まる要因は一体何なのかを、日本におけるハロウィーンを受容状況、渋谷の発展の歴史、渋谷駅周辺のイベントの開催、渋谷での様々な出来事を中心にリサーチし、その要因を探っていきたい。今回特に「渋谷ハロウィーンを意識した日本のハロウィーン受容年表（1948 年～2019 年まで）」を作成した。2018 年に渋谷センター街での軽トラック横転事件をひとつの頂点として考え、これ以前の動きについて特に着目する。

2 日本のハロウィーン受容の概要

日本のハロウィーンを受容&変容について筆者は大別すると 11 の内容に分けることができると分類しその内容を精査（佐々木 e 1）したが、今回さらに若干の見直しを行い、12 の内容とした。

- 1 明治時代に欧米理解のために英語を理解するための一助として発行された英語辞典類における Halloween が言葉として紹介。

- 2 欧米に留学や海外滞在した者が日本にハロウィーンを紹介。
- 3 欧米の文化や宗教、民俗などを取り上げた専門書による紹介。
- 4 教育の影響。英語科や社会科の授業で取り上げる。幼稚園や保育所等での行事としての実施。
- 5 日本にいる外国人によりイベントとしてハロウィーンが開催。
- 6 ビジネスとしてハロウィーンが利用。
- 7 メディア、エンターテインメントの影響。
- 8 インターネット上に公開された過去の写真・動画等
- 9 テーマパーク。
- 10 地域活性化として開催された地域型のハロウィーン・イベント。
- 11 第6や第7に属さずに何となく広まり、その広がりが異常なまでに高まった通称「渋谷ハロウィーン」。→ 主催者なしで大勢あつまることが特徴。
- 12 家族や友人でパーティ形式で行うもの。さらに地味ハロウィンという小規模で行おうとするハロウィーンパーティ。

当初「6 ビジネスとしてハロウィーンが利用。マスコミが取り上げる。」としていたが、「7 メディア、エンターテインメントの影響」と連動するため、今回は「マスコミが取り上げる」を削除した。また、「8 インターネット上に公開された過去の写真・動画等」を新たに設定した。外国人観光客などは特にこうした過去の情報に影響されることが多い。特にコスプレの場合には文字よりも写真や映像から受ける影響は大きい。

3 渋谷ハロウィーンを意識した日本のハロウィーン受容史年表（1945年～2019年まで）

西暦	月	日本	渋谷	備考 ⁽¹⁾
1945	9		ワシントンハイツ設営	
				本牧の会あゆみ研究会編『本牧のあゆみ』（新本牧地区開発計画局開発部 新本牧開発室、1986年6月） 「この地域には特別の許可がない限り一般の日本人は立入りが禁止されていました。その後Ⅱ号地の主要道路のみ通行ができるようになりましたが、それでもそのほかの道路は路面を赤く塗られた「赤い道」と通称さ

				れ、ちょっとでも迷い込むと、守衛やショアパトロールの車に追い出されるのでした。 しかしこんな金網のむこうの外国とも、子供たちは割合早く親しんだものです。 戦後間もないころには、12月25日のクリスマスともなると、進駐軍のジープに乗ってサンタクロースに扮した若い兵士たちが今の本牧4丁目公園あたりにやってきました。そして物もずらしげに駆けつけた子供たちに、チョコレートやチューインガム、ヌガーなどのクリスマスプレゼントを配ったりしたものです。 間門あたりの子供たちは、11月下旬の「ハローウィン」の風習を見習って、「かぼちゃ祭」と称して、それぞれに工夫した衣装やお面で仮装を施し、接收地のハウスを訪問してお菓子をもらうという楽しみがあり、それは接收地がなくなった今でも、近所に住む外国人の家を訪れるという形で続いています。 また学校レベルでは、本牧小学校あとを接收したアメリカンスクールと、間門小学校との間で、一時期学芸会の交歓会の催しも行われたこともありました（本牧の会あゆみ研究会編 92-93）。 ※ Yokohama Beach DH-Area（横浜海浜住宅地区）の様子。年代が
--	--	--	--	--

				不明。また 11 月下旬となっているが、10 月下旬の誤植の可能性もある。
1948	4			松村武雄『儀礼及び神話の研究』（培風館）の「ドルイド教的祭儀の基督教化」の中に「ハロウィーン」に関する記述がみられる（松村武雄 396, 398）。
1948	8		2 代目ハチ公像、渋谷駅前に建立	
1949	11			中澤 健「Halloween Party ハロウィーン・パーティー」（『時事英語研究』（第 4 巻第 11 号、研究社出版）には高等米會話の題材として、Bob と Jim の会話としてパーティーの場面になっている（中澤 26）。
1950	1			坂西志保「ハロウィーンのまつり」（坂西志保『アメリカの生活』（社会科文庫、三省堂出版）
1950	11	原宿キデイランド開店 「開店当時、近くに在日米軍の居住施設があったためアメリカの文化を積極的に取り入れてきました。そうした中、海外の子どもたちに楽しんでもらおうと始めたのがハロウィンのイベントだったといえます ⁽²⁾ 。」		
1953			丹波文雄の新聞小説「恋文」が大ヒット、映画化され田中絹代監督『恋文』により、すずらん横丁から恋文横丁へ改名	
1955	11			Robert W. Russell "A Quiet Halloween—American Life Through

				Conversation—” (『英語研究』(第 44 巻第 11 号、研究社出版)に季節的にあった英会話の練習として日英語が併記されている。
1956	12		東急文化会館 (～2003 年 6 月)	
1957	9			W.L.Clark“Lesson Fourteen HALLOWEEN” (『SPOKEN AMERICAN ENGLISH (Advanced Course)』(研究社出版)に収録されている。邦名は『アメリカ口語教本』である。
1957	10			「〈10 月の行事〉ハロウィーン」(『中学英語時代』第 1 巻第 63 号、日本英語教育協会)
1958	5			西角井正慶編『年中行事辞典』(東京堂出版) 「Hallowe'en, All hallowes Eve, Hallow Eve 10 月 31 日。万聖節の前夜祭。キリスト教諸国で、愉快なことをして、ふざえる日とされている。万 聖節は諸聖徒を一括して祭る祝日として定められたものであるが、ハロウィーンはその前夜祭として、キリスト教以前の迷信や行事をまとめた行事と見られるもので、その起源については諸説があるが、古代ヨーロッパ北部に居住したドルイド族の祭がもとであるという説もある。ドルイド族には、寒い冬を迎える前に、一晚大騒ぎをしたり、幽霊の話をして、夏に別れをおしむ風習があったといわれる。また、ローマ人が果物の女神ボ

				ナモに、豊かな収穫を祈ったことに関連するという。中世紀のヨーロッパには今日のハロウィーンとよく似た先祖祭があったという。ハロウィーンには祖先の精霊が地上にさまよい出ると信じられており、これを地下に追帰するための諸行事があった。大声を立て、路上で会う者を亡霊と見なし、見さかいなくなぐり付けたことなどがそれで、これから悪口雑言をわめき立てる夜となり、また塀や戸口に白十字のしるしなどをかきつける風をも生じた。イングランドでは、子供たちは白い敷布などを頭からかぶり、手に空罐などを持って叩いて歩き、会う人ごとに1ペニーもらう。それでいたずら公認の日として、子供たちは待ちかねる。アメリカでも、ハロウィーンには子供が面をかぶって町中をわめき歩き、塀や入口などに落書を書きつけ、家々をで菓子をもらって廻る行事が行われる。仮装した子どもが金だらいを叩き、犬猫のなき声などの奇声をあげて、町を歩き、窓ガラスなどに落書を書きちらし、街路に空罐などを積み上げて焚火をしたり、路上の腰掛や標識でバリケードを築いて交通妨害を行うので、警察が総出動で片付ける所もある。あまり悪戯がひどいため、それを善導する目的もあって、仮装のコンクールを行う所もある。仮装では南瓜をくりぬい
--	--	--	--	---

				て目鼻をつけたものをはじめ、骸骨や海賊、箒にのった妖女などさまざまな工夫をこらしたものが登場する。また、この日の遊びではリンゴやドーナッツをつり下げて食うパン食い競争式のゲームが最も行われる。スコットランドでは、ハロウィーンの晩に若い男女が集まって、将来の配偶者を占う遊戯的な儀式を行う風もある（西角井668）。
1958	10			山沢かよ子「10月の行事—ハロウィーン」（『中学1年英語コース』（第2巻第6号、学習研究社）は小見出しもなく、見開き2頁でハロウィーンを紹介している。シカゴの中学校とオクラホマシティの小学校のハロウィーンパーティの写真も掲載されている（山沢6・7）。
1959	3			庄野潤三「万聖節前夜」（『ガンビア滞在記』（中央公論社）
1959	5			東京オリンピック招致決定
1962	5			日本 SF 大会（MEG-CON）（目黒公会堂清水記念館）（継続中）
1964	8		ワシントンハイツ返還	
1964	10		ディスコ「クレイジースポット」	東京オリンピック
1965	2		渋谷公会堂（～2015年10月）	
1965	4			加藤秀俊『アメリカの小さな町から』（朝日新聞社）には「年中行事」として「ハロウィン」が紹介されている。
1965	6		渋谷東急ビル（～2015年3月）	

1966				新宿／ディスコ「ジ・ア ザー」「アングラポッ プ」
1967	11		東急百貨店本店（～ 2023年1月）	桂ユキ子「ハロウィン」 （『小二教育技術』（第 20巻第9号、小学館）
1968				六本木／ディスコ「エン バシー」 赤坂／ディスコ「エンバ シー」「ムゲン」 横田／ディスコ「B・ P」
1968	4		西武百貨店	
1968	12			高橋康也 「Halloween、 Hallowe'en [hæləuɪːn]」（成田成寿 編『英語歳時記／秋』研 究社出版） 「11月1日の万聖節の vigil（宵祭、前夜祭）、 すなわち10月31日。た だラテン系国家では宗教 的色彩が強いが、イギリ ス、アイルランド、アメ リカ合衆国では、民俗的 習慣が教會的行事と並行 して残存している。起原 は古く、古代ケルト民族 のドルーイド教の収穫感 謝祭の行事にローマの果 実の女神 Pomona の祭り が加味されたものと思わ れる。古代ケルト民族は 1年の終わりを10月31 日と定め、その夜を死者 の祭りとした。それは死 者の霊が親族を訪れる夜 であり、また悪霊が横行 し、子どもをさらった り、作物や家畜に害をな す夜であった（Goethe の Faust などにみられる 中世の「魔女の Sabbath」のうち、10 月31日の Sabbath が最 も盛大であって、ほうき にまたがって各地から祭

				りに参加する魔女のイメージはハロウィーンにはつきものである)。当然、死者の霊を導くため、また悪霊をはらうため、焚き火が不可欠のものとなる。また今日、仮装した子どもたちがねり歩き、窓を叩いたり、“Trick or treat”（ごちそうをださないといわずらだぞ）といって喜捨をせびったりする風習も、魔女や妖精のいたずらや祭り用の食糧を貰って歩いた農民など、中世の風習の名残である。イギリスではこの祭り用の食糧をもらって歩いた農民など、中世の風習の名残である。イギリスではこの祭りは Guy Fawkes Day（前出）に吸収された観があるが、アメリカでは Ireland 移民によって輸入されて以来、Jack-o'-lantern（カボチャの中身をくりぬいて目・鼻・口を切り抜き、なかにもうそくをとす。これはしゃれこうべの変形であろう。「生活」の項参照）、黒ネコやそのほか気味の悪い飾りもの、仮面、どんちゃん騒ぎ、いたずらなどがこの日の名物になっている。この夜はまた来るべき冬に備え、新年の占いをするときでもあったことから、今日でも結婚、幸運などの占いが行われる。パン食い競走に似た ‘bob apples’（リンゴ食い競走）もこの日のつきもの（高橋康也 89）。」 ※このあとはロバート・バーンズの詩「ハロウィ
--	--	--	--	---

				ーン」の一節が紹介されている。
1969	7		ジャン・ジャン（～2004年4月）	
1970			株式会社気キディランド編『夢の宇宙誌 キディランド 15 年』株（式会社キディランド、1991年3月） 「キディランドが'70年代に提案したハロウィーンも、'80年代に入ってから新しい展開を見せていく（株式会社キディランド43）。」 キディランドのプレスリリース「原宿ハロウィーンパレードについて」（2008年10月9日） 「日本では、1970年代からキディランド原宿で10月のシーズンイベントとして店頭においてハロウィーン・グッズの販売に力を入れるようになり、1983年10月には販売促進の一環としてハロウィーン・パレードを企画し、一般のお客様に対して参加を呼びかけるイベントを実施しました。（これが日本における最初のハロウィーン・パレード、ということになっております）⁽³⁾。」	羽生雄毅『OTAKU エリート』（講談社、2016年1月）にコスプレに関して以下の記述ある。 「コスプレは、1960年代後半のアメリカで、SF・特撮・アメコミを題材に「costuming（コスチューミング）」として行われるようになった。コスチューミングでは、自分と同じ趣味の人を見つけたり、新しく出会う人に会話を切り出したりするためのもので、例えば『スター・トレック』のキャラクターの格好をすることで、趣味についての会話の潤滑油としたのである。日本でもこの影響を受けて、1970年代中頃からコスプレが行われだした。同人誌即場会であるコミックマーケットの会場では、『科学忍者対ガッチャマン』『機動戦士ガンダム』『キャプテン翼』などのコスプレが行われるようになり、1990年代半ばに『新世紀絵ヴァンゲリオン』が世界的に流行すると、コスプレ文化は日本のみならず世界へ広がった（羽生 114-115）。」
1970	3			大阪万国博覧会 ※3月15日～9月13日
1970	11			小山田義文 「Halloween と Walpurgis Night」（『高校クラスルーム』（11月号、旺文社）
1971				赤坂／ディスコ「ビブロ

				ス」 新宿／ディスコ「ゲット」
1971	1			アガサ・クリスティ／中村能三訳『ハロウィーン・パーティ』（早川書房）
1971	9			六本木／ディスコ「メビス」
1972	7			日本漫画大会（四谷公会堂）（～1981年7月）
1973			渋谷に複合交差点、通称スクランブル交差点が誕生。	新宿／ディスコ「カンタベリーハウス」 赤坂／ディスコ「スーパーコップス」「ハレム」
1973	6		パルコ Part1	
1974				六本木／ディスコ「アフロレイキ」「キャステル」 新宿／ディスコ「ソウルトレイン」
				新宿／クラブ系ディスコ「ツバキハウス」
1975	1			レイ・ブラッドベリ／伊藤典夫訳『ハロウィーンがやってきた』（晶文社）
1975	12		パルコ Part2	第1回コミックマーケット（日本消防会館）（継続中） ※いつからコスプレイヤーが登場したかはわからないが、平成オタク研究会編『図解 平成オタク30年史』（新紀元社、2018年10月）に以下のような記述がある。 「かつて、コスプレは一部のオタクたちが築き上げた“オタク文化”だった。コミックマーケット（コミケ）などの同人即売会で、参加者が人気マンガやアニメのキャラクターに扮したのがコスプレイヤーの始まりだ。コスプレ

				は、同じ価値観を共有することができるコミュニケーションツールだった。平成7年に始まったアニメ「新世紀エヴァンゲリオン」が世界的な大ブームとなり、「エヴァ」関連のコスプレが急増（平成オタク研究会編50）。」
1976		モロゾフ、「ハロウィーンキャンディフェア」開始	ディスコ「ブラックシープ」	
1976		サンリオの Have a Happy Halloween ハンカチタイニーチャイムの販売開始 ※1976 年、1989 年にトレードマークあり。		
1977			ディスコ「ソウルトレイン渋谷」	六本木／ディスコ「フーフー」
1977	4		東急新玉川線開通	
1978			渋谷会館（～2013 年 8 月）	新宿 2 丁目／クラブ系ディスコ「ブギーボーイ」 新宿／ディスコ「ハローホリデー」「ニューヨーク・ニューヨーク」「ステージィ」 六本木／ディスコ「サンバクラブ」「ネペンタ」「インフィニティ」「レオパードキャット」「ザ・ビー」「キャストエル」
1978	7	ジョン・トラボルト主演、ジョン・バダム監督『サタデー・ナイト・フィーバー』の日本公開		
1978	8		半蔵門線開通	
1978	9		東急ハンズ	
1979				六本木／ディスコ「キサナドゥ」「レオパードキャット」「メビウス」「スタジオ・ワン」 「LOVING POWER」

				港区麻布／ディスコ 「3.2.8」
1979	3	ジョージ・A・ロメロ 監督『ゾンビ』の日本 公開		
1979	4		ファッションコミュニ ティー109（後の SHIBUYA109）	
1979	8	ジョン・カーペンター 監督『ハロウィン』の 日本公開		
1980				六本木／ディスコ 「GIZA」「レキシント ン・クイーン」「キサナ ドゥ」（8月閉店、10月 改装、ナバーナ）「クラ イマックス」
1980				いつからコスプレイヤー が登場したかはわからないが、田中東子「コスブ レという文化 消費でも あり生産でもあり」（成 実弘 至編『コスプレする社 会』（せりか書房、2009 年6月）では以下のような記述がある。 「もともと「コスチュー ム・プレイ」は、アメリ カのSF『スタートレック』のファンや『スタウ ォーズ』のファンが、登 場するキャラクターの扮 装を始めたのが始まりだ と言われている。それが 1980年代に日本SF大会 の会場などに伝播する。 1990年代前半までの時 期には、同人誌即売会な どでアニメや漫画のキャ ラクターに扮する人々が 目立つようになる（田中 37）。」
1980	5	ショーン・S・カニン ガム監督『13日の金曜 日』の日本公開		
1981				新宿／ディスコ

				「B&B」 六本木／ディスコ「キス レディオ」「玉椿」
1981	5	ジョン・カーペンター 監督『ハロウィン』、 TV放送		
1981	9		パルコ Part3	
1981	10	全国菓子協会、ハロウ インキャンペーン開始		
1981	12			尚学図書編『国語大辞典 言泉』小学館 「ハロウィーン祭（「ハ ロウィーン」は英 Halloween で「万聖節 の前夜」の意）アメリカ やイギリスで、10月31 日の夜に行われる行事。 古代ケルト 民族 は、この日が一年の終わ りの日、死者の霊が訪れ る日とした。死者の霊を みちびき、悪霊をはらう ためのたき火をたき、子 どもたちは仮装してねり 歩く（尚学図書 1903）。
1982				原宿／ディスコ「ピテク ントロプス・エレクト ス」 六本木／ディスコ「玉 椿」「インクスティッ ク」「ザ・メイキャッ プ」
1982	5	スティーヴン・スピル バーグ監督『E.T.』の 日本公開。 ※ハロウィーンの日 に宇宙人が地球へ、子 供との交流 リック・ローゼンタ ー監督『ハロウィン II』の日本公開		
1983				六本木／ディスコ「プレ スティージュ」「レオパ ードキャット」 青山／ディスコ 「TOKIO」

1983	4	東京ディズニーランド 開園 ※アトラクション「ホ ーテッドマンション」 オープン		
1983	6			『漫画ブリッコ』(6月 ～8月号)(セルフ出版/ 発売:日正堂)に掲載さ れた中森明夫「『おた く』の研究」により「お たく」という言葉がマス コミに登場。
1983	10	原宿キディランドのハ ローハローウィンパン プキンパレード ※主催者を変え、継続 中		
1984				港区麻布十番/ディスコ 「麻布十番マハラジャ」 白金/ディスコ「ダンス テリア」 六本木/ディスコ「ピー ター・ラビッツ」
1985	2	ジョン・G・アビルド セン監督『ベスト・キ ッド』の日本公開 ※重要なシーンがハロ ウィーンとなっている。		
1985				六本木/ディスコ「エリ ア」「ジバンゴ」「ソグノ A」「レーブ・ジャポニ クス」 飯倉片町/ディスコ「プ レステージ」
1985	12	少女向けのホラー漫画 月刊誌『ハロウィン』 (朝日ソノラマ社)創 刊		櫻庭信之「ハロウィーン の夜祭り (Hallowe'en Bonfires)」(安東伸介・ 小池滋・出口保夫・船戸 英夫編『イギリスの生活 と文化事典』研究社出 版) 「11月1日を万聖節と いって諸聖人の祝日 (All Saints' Day)で、 アングロ・サクソン語で “hallow”とは聖徒

				(saint) を意味した。その前夜祭 (10 月 31 日) を Hallowe'en という。万聖節の前夜祭 (All Hallows Even) がつづまって Hallowe'en となったのである。この祭りは 10 月 31 日と 11 月 1 日にかけて徹夜で祈る前夜祭 (Vigil) と万聖節 (Feast of All Saints) と、11 月 2 日の万霊節 (Feast of All Souls) と 3 日間にわたるキリスト教の祭りであるが、ケルト時代から伝わるものである。その大昔の時代からこの祭りは幽霊とか精霊とか死に関係があった。キリスト教以前においては、この日は俗世と来世の垣根が取り払われて、死者が墓場より蘇ると信じられていた。この前夜祭に大かがり火をたく Hallowe'en Bonfires の行事は、19 世紀末まで続いていたが、今日では 11 月 5 日の Guy Fawkes' Night のたき火の習慣に残っているにすぎない。スコットランドの野天のたき火は魔女 (witch) を退治する言いをもっていた。ヴィクトリア女王の時代には、バルモール城 (Balmoral Castle) の前で大かがり火がたかれ、キルトをつけた氏族 (clan) がバグパイプを先頭に、シャンディ・ダン (Shandy Dann) と呼ぶ魔女の像を車で運んで焼き捨てた。ウェイルズでも丘の上ではりえにしだ (gorse) やわらを山と積んで焼き、じゃが
--	--	--	--	--

				いもやリンゴを焼いて食べ、火の周りで踊った。その時各人は白い石に印をつけて火の中に投じ、翌朝その石が砕けずであれば吉、砕けたりなくなっていれば凶と占った（櫻庭 284-285）。
1986				銀座／ディスコ「DINO CLUB」 青山／ディスコ「キング & クイーン」
1986	3			水池日出夫「ハロウィンパーティー」（『海外の教育』（第 85 号 [第 12 巻 第 2 号] 全国海外教育事情研究会）
1986	5	ヴェス・クレイヴン監督『エルム街の悪夢』の日本公開		
1986	10			加藤恭子「アメリカの年中行事」（佐伯彰一他編『アメリカハンドブック』三省堂） 「10月31日にはもう一つ、子供たちにとっては忘れられない「ハロウィーン」がある。これもまた数々の異教徒的要素とキリスト教的要素の混合した行事である。英国の島々や北部フランスの古い住民であったケルト族たちの元日は、11月1日であったと言われている。10月31日とは彼らの大晦日で、精霊や妖精などが騒ぎ廻ると信じていたらしい。また、サムヘインという死の神の祭りを行っていたことから、「ハロウィーン」の代表色、黒とオレンジのうち、その黒に受け継がれたと言われている。百鬼夜行のほうは、その夜の子供たちのグロテスクな扮装に残っている。一

				方、オレンジ色の方は、古いローマの祭、庭や果樹の女神であったポモナの祭からきたのではないかと考えられている。このように、異教徒的要素としては、大晦日の精霊たちの甦り、死と収穫の神々の祭を土台としているのだが、一方キリスト教的要素としては、835年にすべての聖人たちを記念する「万聖節」を11月1日と決めたことであった。その前夜にあたる10月31日は、“All Hallow's Eve”と呼ばれた。この“hallow”は、「聖なる」の意味であるが、この名称から「ハロウィーン」が生まれたと言われている。この夜、子供たちは思い思いの服装をして紙袋を下げ、近所の家々を廻り「ごちそうしないと、いたずらするぞ!」(Trick or treat!)と脅して、キャンディーなどを袋に入れてもらうのである。10月に入ると、「ハロウィーン」にどんな仮装をするか、子どもたちは楽し気に話し合うようになる。 この夜の他の小道具は、カボチャをくりぬいて作るジャック・オ・ランタンであるが、これも蕪を精霊除けに用いたケルト族の伝統の名残りという。また、水に浮かべたりんごを、手を使わずに口で取るアップル・ボビングも、「ハロウィーン」特有のものである。家庭やそれぞれの地区でも、子供のためのパーテ
--	--	--	--	--

				イーを開いたりする（加藤恭子 671-672）。
1987				赤坂／ディスコ「ビブロス」「ムゲン」 六本木／ディスコ「トゥーリア」「オデオン」（プレステージのリニューアルオープン）「BIO」 新宿／ディスコ「ツバキハウス」
1987	10	『読売新聞』10月18日朝刊第23面 ハロウィン仮装、楽しいゾ 東京・恵比寿、代官山に2千人 商店会など企画 「日本には、SF映画の「E・T」などを通じて紹介されてはいたものの、クリスマスに比べると、まだまだなじみは薄い。そこで恵比寿・代官山商店街、などでは、この行事を街の秋名物行事にしたいと考えた」 「キリスト教の聖者を祭る万聖節の前夜祭、ハロウィンをも日本でも楽しもうと、渋谷区の恵比寿・代官山周辺の商店会や企業が、この三十一日、盛大な仮装パレードと大会を開く。二千人が参加する予定。成功すれば、長く地元の“秋祭り”にしたいと、関係者は意気込んでいる。」 「仮装の中心になるのは、周辺の町会や企業関係者約四百人。一般の参加は、仮装をしていくことが唯一の条件。昨年は、ロボット、人間タワーも出現し、周りの笑いをさそった。主催者は子供た		大島良行『アメリカン・ホリデー その神話と現実』（東京書籍） 「（8）「万聖節」（All Saint's Day）と「ハロウィン」（Hallowe'en）」

		ちに、意表をつく仮装で、小さな楽器を持って集まり、盛り上げて欲しいと呼びかけている。」		
1987	10		『朝日新聞』10月28日朝刊第19面 ハロウィン 不気味さが受けてます 「ハロウィン、どうする？」というのが、いま、若者のあいさつがわりになっている。キリスト教の万聖節前夜（10月31日）で、欧米では子どもたちが魔女やお化けの仮装をして家々をまわり、お菓子をもらってお祭りをする。日本でも今年、若者を中心に仮装パーティなどがブームになりそうな勢いだ。欧米から入って、日本でもおなじみになった行事には、クリスマスなどの例があるが、ハロウィンはそれに比べて、まだ分かりにく部分が多い。しかし、そのえたいのしれないところがかえって若者をひきつけているようだ。」 「日本では洋菓子メーカーのモロゾフが12年前から、お菓子の販売促進と結びつけたキャンペーンを始めたが、初めはほとんど注目されなかった。祭りのシンボルとして店内に飾られているカボチャのお化けちょうちんも不気味で、楽しい感じはしなかった。ハロウィンという言葉が広がったのは昭和53年ごろ公開された米国映	

			画「ハロウィン」から。それにつづく「バーニング」「13日の金曜日」など。若者たちが次々と残酷に殺されていく恐怖残酷映画の走りとなった作品で、日本の若者にも強烈な印象を残した。さらに、一昨年12月には少女向けの月刊漫画雑誌「ハロウィン」（朝日ソノラマ）が発刊された。オカルトや恐怖物専門で、実売12万部を越え、中高校生の女子に強い人気がある。」 「東京・原宿の玩具専門店は四年前から、仮装した在日外国人の子どもたちを招待して、ハロウィンのパレードを始め、若者に人気のある代官山でも地元の商店会が昨年から街の活性化を狙った一般参加の仮装パレードをスタートさせた。さらに若者が集まる六本木のディスコなどではハロウィンの夜に仮装パーティーをすることでところも出てきた。」	
1987	11		西武ロフト館	
1987	12		道玄坂／クラブ「ジョー」	
1988				赤坂／ディスコ「アルクス」 六本木／ディスコ「ジャバ・ジャイブ」
1988	10	六甲アイランドハロウィン（神戸）（継続中）		
1988	10	『朝日新聞』10月13日朝刊第17面 売れるかな 10・16 「ボスデー」遊び感覚でギフト企画		

		「10月16日を「ボスデー（上司の日）」と称して、百貨店は全国的にキャンペーン中だが、商戦もいよいよ佳境に入った。5兆円といわれるギフト市場の拡大をあてこんだ新手の“記念日ビジネス”。若者の遊び感覚をねらった、たくましい商魂だが、米国からきたこの記念日が日本に定着するかどうか。仕掛人の百貨店側も確信はない。」 「昨年あたりから始めた10月31日のハロウィンも、パーティーウェアが売れる程度で、ギフト商戦としてはいまひとつ。ボスデーは業界にとってみれば格好のイベント」（西武百貨店渋谷店）。クリスマス前で、やや停滞気味の商戦の“活性化剤”というわけだ。」		
1988	11			松村明編『大辞林』（初版）より「ハロウィ」の項目がある。 「万聖節（11月1日）の前夜祭。古代ケルト起源で、秋の収穫を祝い悪霊を追い出す祭り。アメリカでは、カボチャをくり抜き目鼻口をつけた提灯を飾り、夜には怪物に仮装した子供たちが近所を回り菓子をもらったりする。ハローイン（松村明 1990）。 ※以降、表記が「ハロウィーン」となるが定義の内容については同様。
1988	12	スタン・ウィンストン監督『パンプキンヘッド』の日本公開		

1989				芝浦／ディスコ「芝浦 GOLD」
1989			渋谷／クラブ「HIP HOP」	六本木／ディスコ「ジオイド」「BUZZ」 銀座／ディスコ「エムカルロ」
1989	9		BUNKAMURA (2023 年 4 月、土地開発に伴い長期休館)	
1989	10	本牧かぼちゃ祭り（横浜） ※1989～2000 年、 2012 年～継続中		
1989	10	さがみおおのハロウィン（相模大野）（継続中）		
1989	10	モロゾフ、JR 新宿～千葉間で「ハロウィーンエクスプレス」運行		
1989	12		宇田川町／クラブ「CAVE」	
1990	1	『製菓製パン』（第 56 巻第 1 号、製菓実験社、1 月） 「お菓子列車だ！そりゃもう大騒ぎ ハロウィーン・エクスプレス号で走る仮装パーティ（東京）」 ※1989 年 10 月の記事。		
1990	4		渋谷「DJ バーインク スティック」	六本木／クラブ「XY-RELAX」
1990	9			石綿敏雄編『基本外来語辞典』廣済堂 「ハロウィーン」〔英 Halloween〕万聖節宵。 ◆諸聖人の祭日の前夜祭の意。hallow「神聖化する」「聖人」にアイランド語の指小辞のついてもの（石綿 154）。
1991	2		ドクタージーカンズ ※渋谷の室内型遊園地、ゲーセンターとしてスタートし、その後レストラン、イベント	

			スペース、バーなどを設ける。クリスマス、ハロウィーンパーティなどを開催。いつからハロウィーンパーティなどを開催したかは確認できず。ただし、1983年～2010年の間の動きではないかと推定される ⁽⁴⁾ 。	
1993	3			『コスプレ天国』 (GAME 遊Ⅱ 特別編集、リイド社、1995年7月) コスプレの店員に会えるマンガのデパート [まんだらけ編] 「中野と渋谷にあるマンガ専門店”まんだらけ”。平成3年3月20日に渋谷店がオープンした時に、コスプレ店員のシステムもスタート。アニメ・ゲーム・特撮、あらゆるもののコスプレが集まっている。本屋という日常空間でありながら、コスプレのイベント的なエッセンスを感じさせるから不思議だ。このコーナーではまんだらけのコスプレ店員さんを紹介していく。お客さんによる人気投票も行われているまんだらけのコスプレ店員にかける情熱を感じとってほしい。どの店員さんも実際に働いている人ばかりなので、お店にいけば偶然ばったり会えるかもよ。行ってごらん。」 ⁽⁷⁾
1991	5			港区芝浦/ディスコ「ジュリアナ東京」(～1994年8月31日)
1991	6		宇田川町「J トリップバー・ダンスファクトリー」(J トリップバ	

			ー・ダンスホールのリ ニューアルオープン)	
1991	10	スティーヴン・スピル バーグ監督『E.T.』、 TV 放送		『朝日新聞』10月19日 夕刊第9面 「十六年前からハロウィ ン商品を手掛けている菓 子メーカーのモロゾフは 「やっとビジネスになり 始めた。今年の売り上げ は二億五千万円は堅い」 と強気。ファンシーグッ ズのサンリオも、百四十 点もの関連商品を出して いる。百貨店でも、店員 が魔女の格好をしたり、 米国直輸入の仮装用品を 並べたり。週末に子供を 店舗を集めて仮装大会を 開くなど、イベントも盛 りだくさ んだ。」 「秋には決め手となる 商戦がなかった」という こと。夏のお中元、行楽 シーズンと、十二月のお 歳暮、クリスマス商戦と の間が抜け落ちており、 その間 を埋める客寄せ用の記念 日がほしかったというわ けだ。」 「商戦の規模は五十億円 とも言われるが、現実の 売り上げの増加に結びつ けるよりは、「ディスプ レーによる集客効果が狙 いです」(サンリオ) と、イベ ント志向の企業が多いよ うだ。日本には行事その ものになじみが薄いう え、関連商品の単価も安 いからだ。江崎グリコ は、昨年、「関心を持っ ているのが若者中心で、 当社製品の購買層の主 婦、子供まで普及してい ない」とハロウィンから

				手を引いただけでなく、バレンタイン商戦もとをやめた。ハロウィンに似た日本の行事が旧暦七月（新暦八月）の「地蔵盆」。お地蔵さんに備えた菓子を地蔵で分けたり、子供らが家々を訪ねて菓子をもらって歩くが、年々廃れてきている。「地蔵盆ではキャラクターにならないが、西洋のおばけなら明るくにぎやかで、取り上げやすいのは確か」（明治製菓） 「狙いは「お中元とは違う若者向けのギフトの機会を増やした」（西武有楽町店）。だが、「ギフトの日ばかり増える」との批判を心配する声もあり、池袋などではギフトよりもイベント中心だ。」
1991	10	モロゾフ、船上パーティ		
1991	10	サンリオピューロランド「ハブ・ア・ハッピーハロウィン」 ※テーマパークで最初に行われたハロウィンイベントかもしれない。		
1991	11			新村出編『広辞苑』（第4版）で「ハロウィン」として掲載。 ※初版（1955 月 5 月）～第 3 版（1983 年 12 月）までは掲載なし。 ※「諸聖人の祝日の前夜（10 月 31 日）に行われる祭り。スコットランド・アイルランドに起源を持つ米国の祝い（新村 a 2122）。」 ※「米国の祝い」としてのように定義に誤解が

				ある。
1992	9			六本木／クラブ「エロス・ラヴ・ネスト」
1992	10	東京・二子玉川のナムコ・ワンダーエッグの「ハロウィンイベント」 ※ナムコ・ワンダーエッグは2000年に閉園。		1992年10月17日、アメリカ・ルイジアナ州のバトンルーージュで、留学中の服部剛丈君（当時16歳）がハロウィンパーティーに向かう途中、誤って隣家のドアチャイムを鳴らしたことから強盗と間違えられ、射殺される事件が発生。
1992	11		『日刊スポーツ』11月1日朝刊第20面 ハロウィン用に仮装した外国人500人が駅で大暴れ 駅職員や警察が出動 「キリスト教国の恒例行事「ハロウィン」にあたる10月31日、東京の山手線ホームや電車内で、ハロウィン用に仮装した外国人、日本人が大暴れし、駅職員や警察が出動する騒ぎが起きた。」 「渋谷駅などによると、この日午後9時15分ごろ、顔を真っ白に塗るなどの仮装をした外国人に日本人も交じって500人以上の男女が氣勢を上げながら渋谷駅から山手線に乗り込み、電車内で歌を歌うなどの騒動を繰り返した。仮装した男女は一駅ごとに乗り降りをして繰り返して、新宿駅まで行った後、また渋谷駅まで引き返し、2時間にわたって騒ぎを続けた。」 「渋谷駅では今年の10月31日も電車内の照明が割られるなどの	

			被害が続出。今年は駅員がホームに出て、通報を受けた警察も警戒に当たっていたところだった。」	
1992	12			新宿区神楽坂／ディスコ「ツイン・スター」
1993				六本木／ディスコ「ザ・サーカス六本木」
1993	1			深川章編『現代用語の基礎知識』 高橋章子「若者風俗 用語の解説」より 「ジュリアナ東京」の解説中に見られる。 こちらはボンデージからSF映画のヒロインをイメージしたファッションなど、コスチューム・プレイを楽しむ人種が集まり、アバンギャルドな文化を生み出そうとしているようだ（高橋章子1083）。
1994	10	ティム・バートン監督『ナイトメアー・ビフォア・クリスマス』の日本公開 ※「魔法と不思議な力に満ちた驚異的な世界へ旅立とう。それぞれの休日に、それぞれの特別な世界がある。ハロウィン・タウンの“カボチャ王”ことジャック・スケリントンと、夜に巻き起こる騒動を描いた心温まる物語 ⁽⁵⁾ 。」		ディスコ「GOLD」（芝浦）で1994年10月16日にコスプレイヤーが集まるパーティ開催。593人動員（増田 180）。
1994	12			六本木／ディスコ「ヴァルファール」
1995	1			ディスコ「GOLD」（芝浦）で1月29日にコスプレイヤーが集まるパーティ開催（増田180）。

1995	5			ディスコ「GOLD」(芝浦)で5月5日には1025人動員(増田 180)。 『コスプレ天国』(GAME 遊 II 特別編集、リイド社、1995年7月) ダンスホールが巨大なコスプレ空間になる!! [コスバ編] 「芝浦のディスコ、GOLD で行われたコスプレダンスパーティー。アニメソングが鳴り響くダンスフロアの中、華やかなスポットの光とカメラのフラッシュを浴び陶酔の境地で乱舞するコスプレイヤーたち。日常が消し去られたこの空間が、いまコスプレイヤーの間で評判となっている。来場者全員が参加できるコスプレコンテスト等もあり、よりショーアップされたコスプレイベントを目指す。このコーナーでは5月5日に行われたコスバ3で取材したコスプレイヤーを中心に紹介していく。暗闇の中に浮かぶコスプレイヤーたちの妖艶な姿にキミも虜になること間違いなしだ!!」⁽⁷⁾
1995	7			港区海岸/クラブ「芝浦 GOLD」

1995	9			新宿区歌舞伎町／クラブ「OTO」 ディスコ「ヴェルファール」(六本木)では1995年9月3日にコスプレイヤーが集まるパーティ開催。1221人動員(増田180)。
1995	11		宇田川町／クラブ「オルガンバー」	
1996	3		円山町／クラブ「club asia」	
1996	6			ショーン・ホリー／川村雅也他訳『アメリカ・ポップカルチャー事典』(北星堂書店) 「10月31日の晩に行われる年中行事。アメリカとイギリスでは、子供たちが、お面を付けたり仮装したりして、「お菓子をくれなきゃ、いたずらだ」と言いつつ、お菓子、果物、お小遣いをねだり、近所の家々を回る(⇒パンプキン)。この「お菓子くれなきゃ」の習慣は、1930年代に、青少年の暴力行為を抑制する手段として生まれたものである。(ホーリー205)
1996	7			港区麻布十番／クラブ「MISSION」
1996	9			六本木／クラブ「GALLERY BAR bless」 港区南青山／クラブ「OJAS loung」
1996	11			秋月りす『かしましハウス』 ※11月号でハロウィーンを取り上げる(飯倉2)。
1997				六本木／クラブ「PLASTIC」
1997	10	カワサキハロウィン		

		※2021年で終了		
1997	10	東京ディズニーランド の「ディズニー・ハッ ピー・ハロウィーン」 ※10月31日限定		
1997	11		『産経新聞』11月2 日朝刊第25面 ハロウィーン仮装の外 国人 電車内で300人 大騒ぎ、2人を逮捕 山手線に遅れ 「一日午後十時ご ろ、東京都渋谷区道玄 坂のJR渋谷駅で、駅 職員から「山手線外回 りの電車内で外国人が 騒いでいる」と警視庁 渋谷署に連絡があっ た。」 「渋谷署の調べで は、四両目の車内で顔 にメーキャップするな どハロウィーンの仮装を した外国人約三百人が 酒を飲んで騒いでお り、うち約二百人が同 駅で下車していた。」 「混乱を收拾しよう と署員が駆けつけたと ころ外国人に暴行を受 けるなどしたため、ニ ュージーランド人ら男 性二人を公務執行妨害 などの現行犯で逮捕し た。」	新宿区歌舞伎町／クラブ 「CODE」
1997	11		『読売新聞』11月2 日朝刊第31面 山手線 “ハロウィーン騒 動” 仮装外国人百数 十人 酒飲み車両占拠 「一日午後九時五分ご ろ、東京・JR 新宿駅 などで、ハロウィーンで 仮装した外国人百数十 人が、山手線の外回り 電車に乗り込み、車内 の電灯を消したり、飲 み物をまき散らすなど	

			の騒ぎがあった。 警視庁によると、J側の通報で各駅に警察官が張り付き、同十時過ぎに渋谷署員らが、外国人の大半を渋谷駅で降ろしたため、騒ぎは収まった。同署では数人に事情聴取した。」	
1998	8	ウェス・クレイヴン監督『スクリーム』の日本公開		
1998	10	北山ハロウィン（京都市）（継続中）		
1998	11			新村出編『広辞苑』（第5版）で「ハロウィン」として掲載。 「諸聖人の祝日の前夜（10月31日）に行われる祭り。スコットランド・アイルランドに起源を持つアメリカの祝い（新村b 2197）。」 ※1991年11月の第4版の定義の誤りを訂正せず、「アメリカの祝い」のままとしている。
1999	9			粕谷千由紀「ハロウィーン Halloween」（亀井俊介編『アメリカ文化事典』研究社出版） 「10月31日の夜に、仮装をして楽しむ祭り。ハロウィーンならではの飾り付けとして、かぼちゃの中身をくり抜き、目・鼻・口に穴を開けたちょうちん（ジャック・オ・ランタン）をポーチや窓際に置く。この他、おばけや骸骨といったグロテスクな人形を庭木などにぶら下げる家もある。当日夕食後暗くなると、子供は思い思いの仮装をし、キャンディを入れる袋を手し、近所を回る。

				衣装を手作りだったり買ったものだったりであるが、吸血鬼や魔女など気味の悪いものが定番になっている。幼児はウサギその他の動物に扮することが多い。子供は各家のドアをノックし、家の人が出てくると、「ごちそうしてくれないといたずらするよ」(‘Trick or treat’)という。各家庭ではキャンディを用意しておき、子供に与える。ハロウィーンでは、子供はボビング・フォー・アップル (bobbing-for-apple)と呼ばれる、リングをくわえるゲームをする。これは、水を入れた桶にリングをいくつか浮かべ、手を使わずに歯だけでくわえるゲームである。大人だけのパーティでは、仮装をして集まりおしゃべりすることが多い。古代ケルト人の間で、10月31日は旧暦の大晦日に当たり、死者の霊が戻って来ると信じられていた。ちょうど秋の収穫を祝う時期でもあるので、ケルト人はこの日を祭りの日にしていた。やがてローマ人がケルト人をキリスト教に改宗させようとしたとき、この習慣をキリスト教に取り込んで利用することにし、翌日の11月1日をキリスト教の聖人を記念する「万聖節」(All Hallows)に定めた。Halloweenという言葉は、All Hallows Eve (万聖節の前夜) からきている (粕谷 358)。
--	--	--	--	--

1999	12		Q フロント	
2000	1			岡田泰男「ハローウィーン Halloween: Hallowe'en」(斉藤真他監修『【新訂増補】アメリカを知る事典』平凡社、新訂増補版第1刷) 「10月31日の夜に行われる年中行事、古代ケルト人のサムハイン Samhain 祭が起源といわれる。これは死の神サムハインをたたえ、新しい年と冬を迎える祭りで、この日の夜には死者の魂が家に帰ると信じられた。キリスト教の伝播にともない、この祭りはキリスト教にとりこまれ、諸聖人の祝日である万聖節(11月1日)の前夜として位置づけられた。hallow とは アングロ・サクソン語で<聖徒 saint>を意味し、All Hallows Even(万聖節前夜祭)がつづまって<Halloween>となった。今日ではアメリカ合衆国の子どもの祭りとして有名である。アメリカでは、この夜のため、大きなカボチャをくり抜き、目鼻口をつけた提灯 jack-o'-lantern を作り、窓際に飾っておく。学校では仮装パーティなどが開かれるが、夜になると怪物、魔女、海賊などに仮装した子どもたちが、隣近所の家々を回って<ごちそうしないと、いたずらするぞ Trick or treat!>と言いながら、チョコレートやキャンディをせびっていく(岡田390)。
2000	4		渋谷マークシティ	

			円山町／クラブ 「WOMB」	
2000	9		宇田川町／クラブ 「CAVE」	
2000	10	東京ディズニーランド の「ディズニー・ハッ ピー・ハロウィーン」 ※10月1日～10月31 日		
2001	3			関口英里『『文化装置』 を通してみる現代消費社 会のメカニズムー日本に おける『アメリカ』をめ ぐって』（大阪大学大学 院言語文化研究科、博士 論文） 「本牧の歴史をつづった 『本牧のあゆみ』による と、「戦後間もない頃は クリスマスともなると、 進駐軍のジープに乗って サンタクロースに扮した 若い兵士達が…物珍しげ に駆けつけた子供達に、 チョコレートやチューイ ンガム、ヌガーなどのク リスマスプレゼントを配 ったりしてものです」 （本牧のあゆみ研究会 1986：93）とあること からも、この地域では戦 後間もない頃からアメリ カの祝祭や風習との関わ りがあったことがわか る。さらに本論文の主題 であるハロウィンとの関 連において特筆すべき は、この時期から本牧の 接收地とその近隣でハロ ウィンの行事が行われて いたという事実である。 「間門あたりの子供たち は、10月下旬の『ハロ ーウィン』の風習を見習 って、『カボチャ祭』と 称して、それぞれに工夫 した表情やお面で仮装を 施し、接收地のハウスを

				訪問してお菓子をもらおうという親しみがああり、それは接收地がなくなった今でも、近所に住む外国人の家を訪れるという形で続いています」(本牧のあゆみ研究会1986: 93) という記述からも明らかなおあり、本牧は敗戦直後からアメリカのみならず、ハロウィンとも密接なつながりを持つ土地なのである(関口 70)。」
2001	9			9 月 11 日。アメリカ同時多発テロ事件。
2001	9			ベルンハルト・マイヤー／鶴岡真弓監修『ケルト事典』(創元社)には「ハロウィーン」の項目はないが、「サウイン」の項目がある。
2001	12		スクランブル交差点前の Q フロント大画面を利用したカウントダウンイベント (石井 48)	
2002	6		サッカー、日韓ワールドカップ ※新横浜国際競技場：対ロシア戦後、渋谷スクランブル交差点でハイタッチムーブメントが誕生。 「ハロウィンと同様の「スクランブル交差点でのお祭り」で思い出されるのが、サッカーの日本代表戦である。この行動様式が生まれたのはおそらく 2002 年の日韓ワールドカップのころ からだと思うが、本格的に定着したのは 2010 年の南アフリカワールドカップあたりからではないだろうか。日本代表が	

			グループリーグ突破を決めたデンマーク戦の直後には早朝から「騒ぎたい人たちが」が集合し、お祭り騒ぎを繰り広げた（レジャー189-190）。」	
2002	7			ジャン・マルカル／金光仁三郎・渡邊浩司訳『ケルト文化事典』（大修館書店）には「目はないが、「サウイン（祭）」の項目がある。
2002	10	東京ディズニーランドの「ディズニー・ハロウィーン・パレード」※10月1日～10月31日。パーク内の大人の仮装は10月31日限定でOK。		
2003	10			世界コスプレサミット（名古屋）（継続中）
2003	10	ROPPONGI HILLS HALLOWEEN（継続中）		
2003	10	ハロウィーン in 多摩センター（継続中）		
2003	10	よこはまハロウィーン（横浜市青葉区）（継続中）		
2003	6			坂本ひとみ「ハロウィーン、万聖節の前夜祭（Hallowe'en）」（橋口稔編『イギリス文化事典』大修館書店） 「10月31日のハロウィーンは、11月1日の万聖節（All Saints' Day）の前夜祭であり、All Hallows (=Saints) Eve が つ づ ま っ て Hallowe'en となった。この日と万聖節とその翌日の万霊節（All Souls' Day）は、天国の聖者や煉獄の霊、死者を悼む日でキリスト教の祭りであるが、ケルト時代

				から伝わるものである。ハロウィーンは古代ケルトの暦で一年の終りの日であるため、新しい年の運を占うためのさまざまな遊びがある。くるみを火にくべてはじけるか否かで恋の行方を占ったり、女の子たちがリンゴの皮をむいてそれを投げ、未来の夫の名前をイニシャルを読みとる占いをした りする。また、ひもで、つるしたり水を入れた桶にうかべたリンゴを手を用いずに口でくわえる遊びもある。ハロウィーンの夜6時から、仮面をつけて魔女や妖精に変装した子供たちが家々を訪ねて「Trick or Treat!」と叫ぶ。これはお菓子やおもちゃをくれないといたずらするぞという意味であり、もらうと子供たちは「Happy Halloween!」と叫び、大人の方も「Happy Halloween!」と言り返す。こうした遊びやハロウィーンの大かがり火（Hallowe'en Bonfires）の習慣も、今日の Guy Fawkes Day に吸収されてしまったようである（坂本 263-264）。
2004	2	村野浩一「青葉区をオレンジ色に染めよう！～郵便局と地域で作ったイベント「よこはまハロウィン」～」(『郵政研究』第311号、郵研社、2月) ※2003年10月の記事。		
2004	4		ソフィア・コッポラ監督『ロスト・イン・ト	

			ラレーション』の日本公開 ※渋谷スクランブル交差点のシーンがある。	
2004	10	まちなかのハロウィン (日向市) (継続中)		関口英里『現代日本の消費空間—文化の仕掛けを読み解く』(世界思想社、10月)
2005	9	東京ディズニーランドの「ディズニー・ハロウィーン・パレード」 ※9月12日～10月31日。パーク内の大人の仮装が3日間となる。		ジャスティン・リン監督『ワイルド・スピード×TOKYO DRIFT』の日本公開 ※渋谷が舞台
2005	9			サンリオのキャラクター、クロミ、単独で販売開始。 ※誕生日：10月31日
2006	4			ハロウィン (Halloween) (加藤迪男編『記念日・祝日の事典』東京堂出版) 「もともとは11月1日に行われるキリスト教の祝日・万聖節の前の日を指した。アイルランドの古代ケルト暦では大晦日にあたり、死者の霊が家に戻ってくる日で、ほうきに乗った魔女が黒猫を連れてやって来て悪さをする日と言われていた。子供たいがいろいろな扮装をして戸口で「お菓子をくれなきゃ悪戯するよ」と脅すのもケルト族の言い伝えから。この日のシンボルは、カボチャのランタン、魔女、お化け。シンボルカラーはオレンジと黒(加藤迪男156)。
2006	4			福田アジオ・新谷尚紀他編『日本民俗大辞典』(下、吉川弘文館)には「バレンタインデー」の項目はあるが、「ハロウ

				イーン」「万聖節」の見出し語はない。また上巻には「クリスマス」の見出し語がある。
2006	9		ジャスティン・リン監督『ワイルド・スピード X3 TOKYO DRIFT』の日本公開 ※渋谷スクランブル交差点のシーンあり。	
2006	10	にいつハロウィン仮装まつり（新潟市）（継続中）		
2007	10	博多ハロウィン仮装パレード&コンテスト（博多市）（継続中）		
2008	1			新村出編『広辞苑』（第6版）で「ハロウィン」として掲載。 「諸聖人の祝日の前夜（10月31日）に行われる祭り。スコットランド・アイルランドに起源を持つアメリカの祝い（新村c 2310）。」 ※1991年11月（第4版）、1998年11月（第5版）の定義の誤りを訂正せず、「アメリカの祝い」のままとしている。
2008	3			関口英里「日米のテーマパークにおけるハロウィン・イベントの展開—消費文化の生成の再構築をめぐって—」『比較文化研究』、第80号、日本比較文化学会)
2008	10			観光庁
2009	3			「ハロウィーン」（新谷尚紀監修『ポプラディア情報館年中行事』ポプラ社） 「ハロウィーン 古代ヨーロッパの祭りから生まれました。今では、子どもたちが仮装してお菓子をもらう行事です。」

				「ケルト人の収穫祭がはじまり ハロウィーンは、ヨーロッパではじまった、万聖節（天国にいる聖人を記念するキリスト教の祝日で、11月1日のこと）の前夜祭で、ヨーロッパの先住民族であるケルト民族の祭りの日を1年の終わりとして、その年の収穫を感謝し、その夜に家族のもとにもどるとされる先祖の霊を迎える祭りをおこなっていました。同時に、その夜は養成や魔女、悪霊も空を飛びまわると信じられ、それらを追いはらうために、魔よけ明かりをともしました。3～4世紀ごろに、ヨーロッパにキリスト教がひろまり大きく発展します。そして、7世紀はじめごろに、ケルトのこの祭りがキリスト教の祝日である11月1日の万聖節の前夜祭と重なることから、いっしょにおこなうようになり、これが「ハロウィーン」という行事になりました。仮装とお菓子の祭りにハロウィーンが現在のようなになったのは、17世紀以降のこと。ヨーロッパからの移民が、アメリカでハロウィーンをおこなうようになってからです。10月31日の晩、子どもたちはおばけなどの仮装をして「トリック・オア・トリート」（おやつをくれなきゃいたずらするよ）といって、近所をまわってお菓子をもらいます。これは、ケルト民族が、祭りのための食糧を集め
--	--	--	--	--

				た歩いたことがもとになっているといわれます。また、中世のヨーロッパの風習がもとになったともいわれます。それは、11月2日に、亡くなった人がいるキリスト教徒の家を訪ねてパンケーキをもらい、そのお礼にお祈りをすると、死者は、天国に行けるというものでした。ハロウィーンがちなつくと、オレンジ色のかぼちゃをかたどったものに目、鼻、口をあけたランタン（手さげのランプ）が店先に並びます。これは、悪魔をだましたジャックという男が、罰としてあの世とこの世のあいだをさまようときにもつ明かりだというアイルランドの民話に由来するもので「ジャック・オー・ランタン」とよばれています（新谷137）。
2009	4			小林英美「人気のないハロウィーン」（出口保夫・小林章夫・齊藤貴子編『21世紀 イギリス文化を知る事典』東京書籍） 「かぼちゃの灯籠ジャック・オ・ランタン（Jack o' lantern）に魔物の仮装、ハロウィーン（Halloween）はクリスマスなどと同様に、日本では宗教性の希薄な商業的イベントとして人気を博している。日本のハロウィーンはアメリカから輸入されたものだが、イギリスではどうだろうか。実はイングランドではあまりポピュラーではない。店頭に関連商品が

				並ぶものの勢いはあまり感じられないのだ。しかしアイルランドとスコットランドの一部では、昔から馴染みのあるお祭りとして定着している。これはどういうことか。アメリカでのハロウィーンの本格的な始まりは、19 世紀中期におけるアイルランド人のアメリカ移住にある。つまりアイルランド人がアメリカに伝えたケルト系の風習なのだ。ジャック・オ・ランタンも、もともとは蕪であったが、アメリカではかぼちゃが入手しやすい上に、大きくて抜きやすかったので普及したのだという。ケルト系の風習と書いたがハロウィーンは、厳密にはキリスト教的なお祭りとケルトの風習が融合したものである。キリスト教的には 11 月 1 日が万聖節、ないしは諸聖人の祝日 (All Hallows [All Saints'] Day) で、その前夜、つまり万聖節前夜 (All Hallows [All Saints'] Evening) が縮まったものである。一方、古代ケルトの暦によれば、11 月 1 日からが新年で、その前の晩はサウインという旧年との境界である。その境界の切れ目から幽霊やお化けなどが出てきて、冬の訪れを祝して人々に悪戯をするといわれていたことが、仮装をして「もてなさない」と悪戯するぞ ("Trick or Treat!") といって、お菓子などをねだって回る風習となっ
--	--	--	--	--

				てのであった。またそんな化け物などから身を守り、収穫を感謝するために篝火が焚かれたが、それはあとで紹介するガイ・フォークス・デイの火祭りのなかにも残っている（小林 684-685）。
2009	9	東京ディズニーでもディズニー・ハロウィンを開催。 ※ディズニーリゾート全体でディズニー・ハロウィンを実施。		
2009	12		スクランブル交差点で、突発的にカウントダウンが始まる（石井 48-51）。 「騒ぎのピークとなるのは 23 時 50 分頃からである。ロケット花火をあげた若者がおり、その周りにいた人は火をつける瞬間パニックになって逃げようとするが、ロケット花火が打ちあがった瞬間少し離れた場所にいる人々は、その音で更に歓声をあげて熱気を帯びていく。 カウントダウンは突然始まった。どこからともなく、「20 秒前」問う声が聞こえると、小さかった声が段々大きくなり、「3、2、1」という声とともにクラッカーやお酒や水が空中を飛んだ。「ハッピーニューイヤー」と「あけおめ」という声が方々から聞こえ、盛り上がりは最高潮に達する。その直後から、今度は信号が青になるたびに横断者	

			がハイタッチしていくという現象が始まった。ハイタッチの中心になっているのは、やはり外国人という印象である。ハイタッチの横断者たちは毎回ほとんど同じ人物である。つまり、信号が青になるとハイタッチをしながら反対側に渡る。赤になるとハイタッチしながらもと来た方向に戻る、ということを繰り返しているのである(高久 309-310)。」	
2010	2			バンクーバー冬季オリンピック
2010	6		サッカー、南アフリカワールドカップ ※ベルギー戦(6月24日の翌日5時過ぎのレポート) 「人々が集まっているのは「あけおめ」のカウントダウンが行われたのと同じスクランブル交差点である。違っているのは、駅へ向かう群集の中にサッカー日本代表の青いレプリカユニフォームを着ている若者が少なからず見られた点である。渋谷駅周辺にはスポーツバーやスポーツカフェが40店舗以上ある。そこでの観戦を終えた人たちが帰路に着くために駅へ向かっていた。渋谷駅は電車の始発の時間を迎えていたので、センター街方面へ向かう人と駅へ向かう青い軍団が交錯する状態になっていた。その時突然、センター街入り口にたむろっ	

			ていたユニフォーム姿の若者たちが日本代表チームの応援歌を歌い出した。それをきっかけに、駅方面へ向かっていた通行人、特にユニフォームを着ている人々が、同じように応援歌を合唱しながらハイタッチを始めた（石井 59-60）。」 ※対デンマーク戦後、渋谷スクランブル交差点でハイタッチムーブメント（6月26日）	
2010	8		ポール・W・S・アンダーソン監督『バイオハザードIV アフターラフ』の日本公開 ※雨降る渋谷駅マのスクランブル交差点から始まる。	
2010	10		原田曜平「渋谷ハロウィンの消滅」 「2010年頃からパリピ系を中心に年々盛り上がった渋谷ハロウィン」⁽⁸⁾	『朝日新聞』10月23日朝刊第29面 10月掲載なし。ただし、10月23日朝刊第29面に「縁日 ハロウィンの装いおいで 西荻窪の商店街 若手が08年に復活」 ※「杉並区のJR荻窪駅北口のそばの「伏見通りの縁日横丁」で30日、仮装して参加する「ハロウィン縁日」が開かれる。1度はすたれた地域の縁日を、商店街の若手が「現代風」に復活させた。路上でのヒップホップダンススタイルも新設し、踊りたい子どもたちを「募集している。」 ※「4回目の今年は路上でのヒップホップダンスを
2010		日本でのハロウィン 「古代ヨーロッパのケルト民族の収穫祭が起		

		源。米国では 10 月 31 日、仮装した子どもたちが「トリック・オア・トリート」と菓子をもらいにまわる習慣が文化となった。日本では 2010 年ごろから、仮装して「非日常」を楽しむ意味合いで人気が高まった。「日本記念日協会」によると、今年のハロウィーンの推計市場規模は前年比約 10% 増の約 1345 億円。バレンタインの約 1340 億円を初めて上回るとみられる⁽⁹⁾。」(ただし記事は 2016 年のもの)		
2010	10	フランク・ダラボン企画『ウォーキング・デッド』(アメリカ TV ドラマ) のシーズン 1 の日本放映		『読売新聞』10 月 31 日 朝刊第 34～35 面 お菓子くれなきや… 愉快的なハロウィーン 「今日 31 日はハロウィーン。悪霊を払い、収穫を祝うキリスト教のお祭りとして、欧米で広く親しまれている。ちょっと怖くて愉快的なおばけの世界を楽しもうと、都内の各地でイベントが催されている。 豊島区大塚の「区民ひろば南大塚」。地域住民が仮装して参加する 4 年目のイベントが 30 日、開かれた。施設職員らが約 1 ヶ月かけ、カボチャのろうそくなどを飾り付けた部屋に、思い思いの衣装に身を包んだ約 160 人の親子連れや高齢者が集まった。 ※4 年目という文面からイベントが 2007 年から開催されていたことがわかる。 『読売新聞』10 月 31 日

				日曜版第3面 おやこで英会 WA! レ ッ ス ン 43 Happy Halloween! (ハッピー ハロウィーン!)
2010	12		渋谷の自然発生的なカ ウントダウンでは外国 人が多い。 「…海外の人達は警察 に止められると戸惑っ たようにしていたのが 印象的であった。ニュ ーヨークのタイムズス クウェアではお揃いの 帽子が配られたり、風 船が配られたり、アー ティストによるライブ が行われたり、主催者 のいるカウントダウン イベントがあるが、そ れと同様に渋谷でもイ ベントのつもりでやっ てきている人達も多く いるようである (高久 311)。」	
2010	10	中央林間ハロウィンフ ェスティバル (大和 市) (継続中)		
2011	3	東日本大震災		
2011		日本記念日協会・記念 日文化研究所発表のハ ロウィーンの推計市場 規模、560 億円 ⁽¹⁰⁾		
2011	9	ユニバーサル・スタジ オ・ジャパン ※ユニバーサル・スタ ジオ・ジャパンの「ハ ロウィーン・ホラーナ イト」(9 月 23 日～10 月 31 日)	センター街メインスト リートを「バスケット ボールストリート」と 改名	
2011			『週刊ポスト』(第 54 巻第 36 号、小学館、 11 月) コスプレバカのから騒 ぎ ハロウィン 悪習 の「生みの親」出てこ い!	

			「渋谷センター街のある飲食店主が振り返る。 「仮装集団が練り歩くようになったのは、確かに 11 年ですね。東日本大震災のあった年なので記録に残っています。震災の自粛ムードが明けてきたなあと実感したんです。とはいえ当時はそこまでの規模ではなく、今のようにセンター街が埋め尽くされるようになったのは翌 12 年だったかな。以降はもうハロウィンなんて関係ない単なる若者のバカ騒ぎになっていった」⁽¹¹⁾	
2011	10			『読売新聞』10月23日 日曜版第5面 おやこで英会 WA! レッ スン 92 Trick or treat? (お菓子くれないとイタ ズラしちゃうぞ!)
2011	12		渋谷の自然発生的なカ ウントダウンの様子 「…警察の抑止力が少 なかったことや、フォー ーエバー21 のビルで カウントダウンを行っ たもあったせいか、午 前0時になったとたん に、警察の規制を飛ば してスクランブル交差 点内に入り込んでしま った(高久 311)。	
2012			室作幸江「ハロウィン 市場のさらなる活性化 のカギは「家族」「具 体的な行動」「スーパ ー」」(『DIAMOND Chain Store』(第 47 巻第 16 号、ダイヤモ ンド・リテイルメディ ア、2016 年 9 月)	

			「日本でハロウィンが広く認知されるようになったのはいつ頃なのか。マイボイスのアンケートデータベースサービス「MyEL (ミエル)」では、2008 年から継続的にハロウィン調査を実施しているが、それによれば、12 年頃を境にして、ハロウィンの認知が一気に高まり、そのイメージが明確に変わってきた報告している。調査を始めた 08 年はハロウィンに対する印象が薄く、10 年になると、テーマパークでのイベントやスーパー店頭で見かけるハロウィン用の限定商品に興味を持たれ始めるものの、大きなムーブメントには至っていない。ところが、12 年になると「ハロウィン＝シェアするイベント」の側面が見え始める。 「仮装した写真を SNS (ソーシャルネットワーク) などにアップする」「友達が仮装の写真をアップしていた」といった発言が目立つようになってきた。また、限定商品やイベントも定着し始め、本来の意味はさておきハロウィーンというイベントの認知度がいよいよ高まっていく。13 年以降は、ハロウィンの盛り上げりがテレビなどさまざまなメディアで広く伝えられたた、「ハロウィン＝みんなで盛り上が	
--	--	--	---	--

			るイベント」とイメージされるようになった(室作 136)。	
2012	1			林四郎監修／篠崎晃一他編『例解国語辞典』、三省堂 「ハロウィーン 〈名〉キリスト教で、万聖(ばんせい)節(=聖人を記念する祝日)の前夜祭。10月31日。子供たちが仮装し、家々をたずね歩いておかしをもらう行事が行われる。◇Halloween 参考元来は、死者の霊(れい)をむかえる日とされる」(林 927-928)。
2012	4		渋谷ヒカリエ	
2012	7			ロンドンオリンピック
2012	10		「日本のハロウィンバカ騒ぎの歴史 2012年に一気に爆発、背景に人気アーティストのMV も」(週刊ポスト、2022年11月7日) 「2012年10月末には〈渋谷のハロウィン超ヤバかった〉マーケティングアナリストの原田曜平氏が、日本におけるハロウィン文化の広がり解説する。 「1983年にキディランド原宿店が行なったハロウィンパレードや、1997年から川崎駅前が始まった『カワサキハロウィン』が起源との説がありますが、私としては東京ディズニーランドで1997年に行なわれた仮装イベントがブームのはじまりだと考えて	きゃりーぱみゅぱみゅ『ファッションモンスター』

			います。 その後、海外の文化を知る一部の帰国子女から徐々に広がり、2011～2012 年頃に渋谷や六本木で爆発的に参加者が増えた」 ハロウィンの人気に火が付くと、お菓子メーカーやコスプレ玩具メーカーがハロウィンに乗じてセールを展開。日本記念日協会によると、2011 年に560 億円ほどだったハロウィンの市場規模は2017年に約1300 億円と倍以上に膨れあがった。」 「渋谷センター街のある飲食店店主が振り返る。 「仮装集団が練り歩くようになったのは、確かに 2011 年ですね。東日本大震災のあった年なので記憶に残っています。震災の自粛ムードが明けてきたなあ実感したんです。とはいえ当時はそこまでの規模ではなく、今のようセンター街が埋め尽くされるようになったのは翌 2012 年だったかな。以降はもうハロウィンなんて関係ない単なる若者のバカ騒ぎになっていった」 ツイッターでも、2012 年 10 月末には〈渋谷のハロウィン超ヤバかった〉といった書き込みとともに、渋谷の街がカオスと化した写真が確認できた。 なぜ 2012 年に一気に爆発したのか――。	
--	--	--	---	--

		そこには1人の人気アーティストの影響があったと見る向きがある。音楽ジャーナリストが語る。 「我々の業界では、2012年10月にリリースされた、きゃりーぱみゅぱみゅの『ファッションモンスター』がハロウィンブームに火を付けたと言われています。MV（ミュージックビデオ）がハロウィンパーティを舞台にしているんです。アパレルブランド『GU』のCMでも楽曲が流れまくったことで若者に浸透した」 ここにフェイスブックやツイッターなどSNSの隆盛が重なり、ハロウィンブームが確立されたというのだ。 また、鉄道に詳しい政治学者の原武史氏は、 〈東武伊勢崎線や東武東上線や西武池袋線の沿線から渋谷に一本で行けるようになったのが大きいのではないかと、鉄道の発展がハロウィン文化の拡大に寄与した可能性についてツイッターに綴っている。 様々な要因が複合的に絡み合ったことで生まれたバカ騒ぎは、犯罪の温床と化した。全国紙記者が語る⁽¹²⁾。」	
2012	10	『週刊ポスト』（第54巻第36号、小学館、11月）	

			コスプレバカのから騒ぎ ハロウィン 悪習の「生みの親」出てこい！ 「なぜ 12 年に一気に爆発したのかー。 そこには 1 人の人気アーティストの影響があったと見る向きがある。音楽ジャーナリストが語る。 「我々の業界では、12 年 10 月にリリースされた、きゃりーぱみゅぱみゅの『ファッションモンスター』がハロウィーンブームに火を付けたたと言われています。MV（ミュージックビデオ）がハロウィーンパーティを舞台にしています。アパレルブランド『GU』の CM で楽曲が流れまくったことで若者に浸透した」 ここにフェイスブックやツイッターなど SNS の隆盛が重なり、ハロウィーンブームが確立されたというのだ⁽¹³⁾。」	
2012	10		『サンケイスポーツ』10 月 21 日第 28 面 「JK 渋谷シンデレラー」MC に浜田ブリトニー 「女子高生の聖地、東京・渋谷で 28 日に参加型ショッピングイベント「JK 渋谷シンデレラショッピング」（主催・JK 渋谷シンデレラショッピング実行委員会）が開催される。」 「渋谷シダックスビレッジクラブの 1 フロ	HALLOWEEN JUNKY ORCHESTRA 『HALLOWEEN PARTY』

			アを借り切って、女子高生が厳選したブランド商品などを特別価格で購入できるショッピングモールを開設。宮下公園周辺では仮装した女子高生によるハロウィンパレードも行われる。」	
2012	10		原田曜平『平成トレンド史』(KADOKAWA、1月) 「ハロウィンの盛り上がりは、インスタ消費の最もたるものでしょう。2012 年度の段階だと、渋谷でコスプレしてハロウィンを楽しむというのは一部のパリピーいち早く流行に乗って騒ぐ「パーティーピープル」一だけでしたが…」(原田 b 152)	
2012	11	「東京 street!第 55 回 ハロウィンの六本木」(『創』第 42 巻第 10 号、12 月号、2012 年 11 月)では写真が中心であるが、次のような記事がある。 「最近、「六本木化」が進みつつあると言われるのが、新宿歌舞伎町だ。外国人、特に黒人が急速に増えた。ここに揚げた写真は、その黒人同士のケンカのシーンだ。発端は右上、黒人女性に男性が殴りかかっていたということだった。それを見て、仲間らしい黒人グループが飛び出してきて、あっという間に乱闘になった。ついには警官隊が出動。一時は騒然となった。今回のケンカ		

		は黒人同士だったが、黒人と白人の小競り合いをする光景も珍しくない。新宿はいま急速に国際化しつつあるのだ ⁽¹⁴⁾ 。」		
2013	3		東急東横線と東京メトロ都心線とが直通運転	「Halloween」日本英語文化学会編『北米文化事典』日本英語文化学会) 「万聖節 (All Sant's Day)とか諸聖徒日といわれる 11 月 1 日前夜の祭り。元来宗教的行事であったが、近年は宗教色が薄れ、子どもたちが仮装して行列を行なったり、夜、大きなカボチャに目・鼻・口をくりぬいて作ったジャック・オ・ランタンという提灯を家の窓際に飾ったりする楽しい行事となっている。また、悪魔などに扮した子どもたちがそのランタンを手にとり“Trick or treat!” (ご馳走しないと悪戯するぞ!) と言いながら近所をまわり、キャンディーなどをねだる風習がある (日本英語文化学会編 127)。
2013	9	2020 東京オリンピックの招致決定 渋谷ハロウィーンの発生について「2013 年を起点とする見方とは、2013 年 9 月 7 日 (日本時間 8 日)、プエノスアイレスでの国際オリンピック委員会 (IOC) 総会で東京 2020 年夏季オリンピック・パラリンピックの開催決定が発表されたことを一つの契機とみなすことだ。2011 年の東日本大震災後、日本の復興の象徴となる国際的な大	渋谷ねぶた祭 (渋谷センター街で実施) (継続中)	

		イベントになるからだ。日本全体が盛り上げる大きな契機としても大きな役割がある。 2011 年以後、渋谷は再開発が始まり、2012 年 4 月に渋谷ヒカリエがオープン、2013 年 3 月に東急東横線と東京メトロ副都心線との直通運転が開始され、2019 年 11 月に渋谷スクランブルスクエア（東棟）がオープンし、2027 年までに大きく変貌する（佐々木 e 23-24）。」		
2013	10	こくらハロウィン（北九州市）（継続中）		
2013	10		飯倉義之「ハロウィーンはどこへ行くー現代日本にハロウィーン受容／展開史 約四半世紀の検証からー」（『子どもの文化』、第 53 巻第 10 号、文民教育協会子ども文化研究所、2021 年 11 月） 「2013 年ごろから、渋谷駅やセンター街周辺の路上にハロウィーンを楽しむ仮装した若者たちが滞留するようになった。注目すべきは DH や KH と異なり、渋谷は街としては何のイベントも開催しておらず、若者たちは SNS 等での発信を見て自主的に集まっていることがである（飯倉 9）。」 ※DH は東京ディズニーランドのハロウィーンイベント、KH はカワサキハロウィンのこと。	
2013	10	『毎日新聞』10 月 21 日朝刊第 14 面		

		「すしで祝うハロウィーン」の記事がある。文中に「ハロウィーンの起源は。古代ケルト人の秋の収穫祭で、キリスト教文化に伝わった。米国ではお化けや魔女に仮装した子どもたちが家々を回り、キャンディーを受け取る行事として親しまれている。日本では2000年ころから広まってきた」。とある。		
2013	10	『毎日新聞』10月24日 夕刊第1面 「ハロウィーン人気拡大」が掲載され、ハロウィーンパーティ開催やコスプレグッズの販売が好調との記事。文中に「電通総研電通若者研究部の奈木れいさんは「古来、八百万の神をあがめる日本人は、クリスマスなど外国の宗教的行事も楽しいイベントとして受け入れやすい国民性なのでは」と指摘。そのうえで、「20代の若者と、幼児を持つ若い母親がけん引役」と見る。「リアルな場で仲間とつながることを重視する20代の若者はイベントを誰と楽しむかが重要で、仮装して一緒に盛り上げられるハロウィーンは絶好のネタ。若い母親には仮装させた子どもの写真をSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）で公開するなど、ファミリーイベントとして支持されることも大きい」と分析する。」		

		とある。		
2014	2			ソチ冬季オリンピック
2014	8			リサ・モートン／大久保 庸子訳『ハロウィーンの 文化誌』（原書房）
2014		日本記念日協会・記念 日文化研究所発表のハ ロウィーンの推計市場 規模、1,100 億円 ⁽¹⁵⁾		
2014	9		渋谷ねぶた祭（渋谷セ ンター街で実施） （2023 年に再会）	
2014	10	池袋ハロウィンコスプ レフェス（継続中）	ハロウィーン時期に渋 谷に若者が集まりはじ める（鈴木 9）	
2014	10	六本木ハロウィン ※ハロウィンパレード （継続）		
2014	10		『毎日新聞』10 月 21 日朝刊第 19 面 「お値打ちハロウィー ン」の記事がある。ダ イソーや東急ハンズで のハロウィーングッズ を紹介。アメリカでは 忍者、スーパーマリオ などの衣装が販売され ていることも紹介。	
2014	10	『朝日新聞』10 月 25 日夕刊第 1 面 「ハロウィーン 街も ハッピー」、「各地で活 気 百貨店も参戦」 「東京都心では、池袋 で 25 日午後から、世界 から 40 人を超す、アニ メキャラクターなどに 扮するコスプレイヤー と一般の参加者が集ま るパレードがある。開 会式には、東京都豊島 区長が、漫画「サイボ ーグ 009」の主人公姿 で登場した。六本木で も 26 日、仮装した約 1500 人がパレードをす る。」		

		11月1日朝刊第35面に「ハロウィーン渋谷占拠 警官も出動」 「東京のJR渋谷駅周辺を31日夜、仮装した若者たちが埋め尽くした。ヨーロッパが発祥のお祭り「ハロウィーン」。お互いに写真を撮り合うゲームのキャラクター、魔女、骸骨…。なぜか、かこみに乗る人も、駅前の交差点は、歩くのが難しいほどになった。千葉市からスーパーマリオに扮してきた大学3年生の男性(21)は「特に目的はないです。楽しんでいきましょう」。相模原市の大学生、国谷夏菜さん(20)は「魔女の宅急便」の主人公キキの衣装姿。「まさかこんなに人が多いとは」。渋谷署によると人出は6月のサッカー・ワールドカップの日本代表初戦の時以上。緊急に120人を配備したという。」		
2014	10			『毎日新聞』10月26日朝刊第13面 「ハロウィーン 列車で満喫 東横線」の記事がある。「東急電鉄が車内仮装コンテストとして初めて実施。8両編成の貸し切り列車にアイデアを凝らした衣装で身を包んだ約100人が乗り込んだ。元住吉駅(川崎市)近くの車庫を出発し、横浜市の元町・中華街駅を折り返して約1時間半後に東京・渋谷駅に到着。途中の停車駅ではホームの乗客が車内のにぎやか

				な光景を楽しんだ。」 ※SHIBUYA 大人ハロウ イン
2014	10	「地味ハロウィン」イ ベント（継続中）		
2014	10		今井舞「見聞録イマイ ズム第 34 回 渋谷の ハロウィン・ナイト」 （『新潮 45』第 33 巻 第 12 号、2014 年 12 月） 「その日の渋谷の様子 は、さんざん報道され たわけだが。19 時少 し過ぎ、渋谷駅の改札 を出ると、そこにはあ のニュース映像通りの 異空間。ちょうど待ち 合わせの頃合いの時刻 だったこともあり、駅 前は湧き出すように集 まる仮装した人間と、 一刻も早く脱出しよう とする、渋谷勤務の普 通の勤め人とは渦巻い てせめぎ合っている。 そこへ加えて、「シブ ヤのハロウィンはすご い らしい」と見物に来た 外国人観光客や、テレ ビの取材クルーが入り 混じり、既に見学する のも大変なほどの人、 人、人。しかしこれ は、単なる混雑では ない。その非日常性 に、その場にいる全員 のテンションが上がり、尋常ならざる雰囲気 に拍車をかけている （今井 288）。」 「盛り上がるハロウィ ン 仮装が溢れる渋谷 に警察出動」 （2014.11.01） 「10 月 31 日のハロウ	

			インに伴い、東京・渋谷が盛り上がりを見せている。3連休前ということから、渋谷駅周辺エリアに仮装者が過去最大数で出現。スクランブル交差点には交通整理をするため警察が出動するなどハロウィンが一大イベントになったと実感するほどの騒ぎになっている。 年々拡大が続けているというハロウィン市場。今年は金曜日ということもあり、夕方から深夜にかけて都内で多数のハロウィンイベントが企画された。外国人が多いため前年も多くの人で賑わった六本木エリアに加え、渋谷エリアでもファッションブランド主催のパーティーやクラブイベントなどに多くの人に参加。仮装が定着したこともあり、夕方から例年にも増して仮装姿の若者が現れ、ゾンビや血まみれのナースなどの定番コスチュームに加えて、「美少女戦士セーラームーン」などアニメキャラクターになりきる「キャラクターコスチューム (= キャラコス)」が多く見られた。 21 時 頃 に は TSUTAYA 前を起点にセンター街や109に向かう通り沿いに人が溢れていたが、終電が迫る時刻には人波がスクランブル交差点に集中し、警察が交通整備に出動。「仮装してい	
--	--	--	---	--

			ない人の方が気まずいです」と語る私服姿の男性や、Twitter 上には「ハロウィンっていつからこんなにメジャーなイベントになったんだ？渋谷とかヤバすぎ」や「仮装した若者で溢れてる！日本の10月31日って、こんなだったっけ？？？」という投稿が見られるなど、予想以上の盛り上がりで驚く人も多くいた。 ハロウィンの盛り上がりは土曜早朝まで続くと予想される。10月に閣議決定されたクラブの朝までの営業を認める風俗営業法改正案を追い風に、今後はクラブ営業の定番イベントとしても熱を帯びそうだ⁽¹⁶⁾。」	
2014	11		『朝日新聞』11月1日朝刊第35面 「ハロウィーン渋谷占拠 警官も出動」 「東京の JR 渋谷駅周辺を31日夜、仮装した若者たちが埋め尽くした。ヨーロッパが発祥のお祭り「ハロウィーン」。お互いに写真を撮り合うゲームのキャラクター、魔女、骸骨…。なぜか、かこみに乗る人も、駅前の交差点は、歩くのが難しいほどになった。千葉市からスーパーマリオに扮してきた大学3年生の男性(21)は「特に目的はないです。楽しんでいきましょう」。相模原市の大学生、国谷夏菜さん	『毎日新聞』11月1日朝刊第22面 「中野でコスプレパレード」 『毎日新聞』11月1日夕刊第7面 「有終?!終夜バス 最終日はハロウィーン 最多更新512人」の記事がある。六本木—渋谷間で終夜運行していた都バスの最終運行日がハロウィーンと重なり、最多利用者数を更新した。

			(20) は「魔女の宅急便」の主人公キキの衣装姿。「まさかこんなに人が多いとは」。渋谷署によると人出は 6 月のサッカー・ワールドカップの日本代表初戦の時以上。緊急に 120 人を配備したという。」	
2014	11		盛り上がるハロウィン 仮装が溢れる渋谷に警察出動 「10 月 31 日のハロウィンに伴い、東京・渋谷が盛り上がりを見せている。3 連休前ということから、渋谷駅周辺エリアに仮装者が過去最大数で出現。スクランブル交差点には交通整理をするため警察が出動するなどハロウィンが一大イベントになったと実感するほどの騒ぎになっている。 年々拡大を続けているというハロウィン市場。今年は金曜日ということもあり、夕方から深夜にかけて都内で多数のハロウィンイベントが企画された。外国人が多いため前年も多くの人で賑わった六本木エリアに加え、渋谷エリアでもファッションブランド主催のパーティーやクラブイベントなどに多くの人に参加。仮装が定着したこともあり、夕方から例年にも増して仮装姿の若者が現れ、ゾンビや血まみれのナースなどの定番コスチュームに加えて、「美少女戦士セーラームーン」な	大原櫻子『オレンジのハッピーハロウィン』

			どアニメキャラクターになりきる「キャラクターコスチューム (= キャラコス)」が多く見られた。 21 時 頃 に は TSUTAYA 前を起点にセンター街や109に向かう通り沿いに人が溢れていたが、終電が迫る時刻には人波がスクランブル交差点に集中し、警察が交通整備に出動。「仮装していない人の方が気まずいです」と語る私服姿の男性や、Twitter 上には「ハロウィンっていつからこんなにメジャーなイベントになったんだ？渋谷とかヤバすぎ」や「仮装した若者で溢れてる！日本の10月31日って、こんなだったっけ??？」という投稿が見られるなど、予想以上の盛り上がりで驚く人も多くいた。 ハロウィンの盛り上がりは土曜早朝まで続くと予想される。10月に閣議決定されたクラブの朝までの営業を認める風俗営業法改正案を追い風に、今後はクラブ営業の定番イベントとしても熱を帯びそうだ⁽¹⁷⁾。」	
2014	12		今井舞「見聞録イマイズム第34回 渋谷のハロウィン・ナイト」(『新潮45』第33巻第12号)	
2015	4		長谷部健、渋谷区長(現職)(第1期)	
2015	7			細田守監督『バケモノの子』公開

				※渋谷スクランブル交差点が登場
2015		日本記念日協会・記念日文化研究所発表のハロウィーンの推計市場規模、1,200 億円 ⁽¹⁸⁾		
2015	8			AKB48『ハロウィンナイト』
2015	9			きゃりーぱみゅぱみゅ『Crazy Party Night～ばんぷきの逆襲～』
2015	10	日本記念日協会・記念日文化研究所発表のハロウィーンの急成長した理由 7 点を発表⁽¹⁹⁾ 「1. 仮装という非日常を体験できる自由な祭りを人々は求めている（全国各地の秋祭りの衰退に反比例しているかのようにも思える）。 2. 誰もが参加できる雰囲気があるので誘いやすく誘われやすい。友だちやグループなどでパレードに参加するのも、それを見るのもお手軽感があり、ハードルが低い。 3. 2011 年の東日本大震災以降、家族や地域の結びつきの大切さを思い、「ハロウィン」というみんなで参加して楽しむイベントで実感したいという人が増えた。 4. 魔女やゾンビ、キャラクターのコスプレの行列など「絵になる」要素が多く、誰かに伝えたいというメディアや SNS の世界には絶好の機会である（SNS で拡散された日本の「ハロウィン」の楽しさ、面白さ、上質さは海外にも拡散し、わざわざ		

		この時期に訪れる外国人も増えている)。 5. 年中行事のようになればその関連商品は間違いなくある程度は売れるので「ハロウィン」のように自由度の高いイベントは「もしかしたらウチの商品、サービスでも参入できるんじゃないか」と思う企業が増えた(パッケージを「ハロウィン」仕様にする商品、料理を「ハロウィン」メニューにする店が増した)。 6. 地域の再生を模索する地方の商店街や百貨店、小売店にとって、地域密着を謳うのに最適な新しい行事になっている。 7. 「ハロウィン」の様子が話題になればなるほどメディアが取り上げる機会が増大し、それがまた新しい話題を呼び、情報量が雪だるま式に増えていく(日本記念日協会への「ハロウィン」に関する取材の申し込みは10月10日時点で4前年の28件から61件と2倍以上の33件も増えている。)		
2015	10	六本木ハロウィン“ジャンボ”(継続中)		
2015	10	「大人は眉をひそめる『ハロウィン』バカ騒ぎをどうしてくれよう!」(『週刊新潮』第60巻第42号、11月)では次のような記事が掲載されている。 「10月25日には、六本木でも『六本木ハ	『朝日新聞』10月25日朝刊第33面 楽しく変身 ハロウィン 芸大生の仮面、人気■券求め未明に列 「■今後開かれる主なイベント・六本木ハロウィン(25日) パレードはチケット	

	ロウイン』というハロウィン・パレードのイベントが催されました」 と語るのは六本木商店街振興組合の堀井健一理事。 「昨年、初開催され、今年が2回目で、パレードには3000人が参加しました。しかしこれ以外にも、去年は約8万人ものギャラリーを集め、今年も同程度の人出でした」 首都圏のハロウィンといえば、渋谷やこの六本木の騒ぎが有名だ。しかし年々、ハロウィンに乗り、仮装姿を楽しむ老若男女は増加し続け、それともともに出没エリアも広がっている。最近では10月に入ると、新宿や池袋など、他の盛り場でもゾンビ女などハロウィン・モードのコスプレ人間が街を練り歩く姿が見られるようになった。 日本においてハロウィンが急速に認知され、年中行事になりつつある状況は、その商業規模の拡大の推移からも窺える。 「ハロウィン人気は日本に急激に広がり始めたのは、2010年以降です。」 「それにしても、日本でなぜこれほどハロウィン人気急伸し、根付いたのか。「要因の一つに、SNS効果が挙げられます。加えて、メディアの力もある。	販売終了。約60店でお菓子がもらえるトリック・オア・トリートは当日券(1500円)を檜町公園と星条旗通り入り口で販売 ・原宿表参道ハローハロウィンパンプキンパレード(25日)パレードはチケット完売。ピアザビル・アッセンブリーホールではプロのカメラマンが仮装した子どもを無料で撮影。表参道ヒルズ地下3階では着ぐるみショーや特設ブースを設置。 ・恵比寿ハロウィンナイト(30、31日)各日午後10時から、バーやカフェ28店が限定料理やカクテルを準備。注文した客は仮装グッズがもらえる。 ・渋谷・渋谷フェス(31日)四つのエリアごとに歌ったり踊ったりするイベント(参加料各3千円など)がある。当日券あり。 ・池袋ハロウィンコスプレフェス(31、11月1日)ステージイベントは午前11時～午後5時。参加無料だがクローク・更衣室利用は500円必要。 ・中野文化祭・MAG Festa(31、11月1日)コスプレパレードとステージイベントがある。コスプレ参加は千円で当日、登録が必要。 ・街コス@高円寺フェス(31、11月1日)	
--	--	--	--

		様々な形で取り上げるので、社会での認知度は急速に高まった」(先の加瀬氏)メディアでもとりわけテレビの力が大きいようだ。テレビ局幹部が言うには、「確かにハロウィンの仮装は画(絵)的にも魅力的で、テレビ向きのコンテンツです。大勢の人が集まるから、そこには自ずとお金も動く。するとスポンサー企業が関心を持たないはずがない。つまりハロウィンは、イベントを楽しむ参加者。スポンサー、テレビ局、いずれにとってもおいしいお祭りなのです。日テレは「ハロウィン・ライブ」を日本武道館で開催するし、フジやTBSもイベントを催します」テレビの力でもさらに“1億総ハロウィン化”の様相を呈するようになるのか⁽²⁰⁾。」	商店街の劇場や寺などでコスプレ撮影ができる。参加費 1500 円で当日は杉並第四小で受け付け。」 グッズ販売が急伸 ハロウィーン関連イベントは年大規模になり、経済的効果は大きい。 お母さんたちが企画し、4 回目を迎える「吉祥寺ハロウィンフェスタ」(27、28 日)。約 100 店が参加し、子どもたちが店を回ってお菓子をもらう。ドン・キホーテ吉祥駅前店は「地域をあげて盛り上がっているから」と初めて参加した。子ども向け商品は、仮装用衣装などの品ぞろえを昨年の 5 倍に増やしたところ売り上げが現時点で昨年の 8 倍。全体の売り上げも 1・8 倍に伸びている。」	
2015	12		渋谷カウントダウン実行委員会(渋谷区、渋谷区商店会連合会、渋谷駅前エリアマネジメント協議会)による「YOU MAKE SHIBUYA COUNTDOWN」	
2015	11			大久保衣純「日本のハロウィーン受容：カワサキハロウィン 2014 年の実態調査から」(『國學院雑誌』第 116 巻第 11 号、國學院大學)
2016	3			佐々木隆「ポップカルチャーとしてのハロウィン」(『武蔵野学院大学日本総合研究所研究紀要』)

				第 13 輯、武蔵野学院大学日本総合研究所) 「ポップカルチャーとしてハロウィンを考えると、すでに述べてきたようにコスプレ、参加型イベント、SNS の 3 点は大きな特徴である。これまでの日本文化における年中行事と同じように考えた場合には食文化との連動性が大きな鍵となる。若者を主役とするポップカルチャーの特徴では食文化はブームになってもその定着性は決して高いとは言えない傾向にある。マクドナルドのハンバーガー、ケンターキーフライドチキンのチキン、クレープは定着したもののかぼちゃに新しい展開がなされるかどうかは疑問である。 ポップカルチャーとしてのハロウィンの展開では食文化の果たす役割は決して大きいものではない。コスプレ、参加型イベント、SNS の中に食べ物としてのかぼちゃではなく、色合い、デザイン、ランタンとしてアイテム化されたかぼちゃとして見るべきではないだろうか。もともとハロウィン発生とは縁のない日本のポップカルチャーでは、コスプレ、参加型イベント、SNS の 3 点こそが重要なのであって、食文化はさして重要でないと思える。西洋発信のハロウィンは日本のオタク文化であるコスプレと出会い、日本のポップカルチャーの中で急速に成長し、変容したのが現在
--	--	--	--	---

				の参加型コスプレイベントのハロウィンなのである。そして、コスプレ、参加型イベントに集まる若者の脳裏には SNS に投稿する写真の材料を求めている欲求を読み取ることができよう（佐々木 a 5）。」
2016	8		リオデジャネイロオリンピックの閉会式での PR 映像のスタートが渋谷スクランブル交差点	
2016		日本記念日協会・記念日文化研究所発表のハロウィーンの推計市場規模、1,345 億円 ⁽²¹⁾		
2016	10		『朝日新聞』10 月 23 日朝刊第 28 面 熱狂 ハロウィンーン 「日本では 70 年代から「キデイランド原久宿店」（東京都渋谷区）が都内に住む在日外国人向けに、ハロウィン関連のグッズ販売に力を入れるようになった。表参道で仮装パレーを実施したのは 83 年 10 月の最後の日曜日である。」 「日本のハロウィーンを市場調査している立教大学院ビジネスデザイン研究科の田中道昭教授によると、ハロウィン人気が急速に高まったのは 2010 年代からである。先導したのは 20 代前半から 30 代前半の若者たち。 「仲間や友人同士のつながりを重視し、異性にもてるより同性から共感を得ることへの関心度が高い」と分析する。」	

			「日本のハロウィーンは仮装をして楽しむ日というイメージが強い。「聖地」と呼ばれる東京・渋谷では昨年、身動きが取りにくいほど人であふれ、警視庁が数百人規模の夕厳戒態勢で臨んだ。スクランブル交差点に規制線を張り、「DJポリス」も「譲り合いの心を持って」などと軽妙な語り口で誘導した。 駅や商業施設のトイレが占拠されたり、汚されたりするなど着替えの時のマナーも問題になっている。渋谷区は昨年、更衣室として特設テントを公園に11基設置した。今年はほかにも民間の大型ダンススタジオが有償の更衣室となり、最大500人を収容できる。」	
2016	10	『朝日新聞』10月25日朝刊第6面 ハロウィーン 秋の主演 パンプキン、すしに入浴剤 「この盛り上がりには、秋の商戦の目玉を欠いていた流通業界が飛びついた。以前は売り場「にぎやかし程度」(流通王手関係者)だったが、今では秋の売り場の定番だ。 コンビニ各社も「ハロウィーンスイーツ」などを用意。ファミリーマートは今年、「パーティーの話題になるように」(広報)と、食べる前にチョコでお化けの絵柄などがつけられる		

		ケーキの販売を始めた。外食では「かつば寿司」のカッパ・クリエイトが、パンプキンサラダをシャリに混ぜた「ハッピーハロウィンちらし」を開発した。 食品以外では、バンダイがパンプキンの香りがするカボチャ形の入浴剤を発売。三菱鉛筆は水性サインペン「ポスカ」で、ハロウィーンの装飾に使われる「ダークカラー」のセットを出した。」		
2016	10		『朝日新聞』10月27日夕刊第10面 ハロウィーン 渋谷厳戒 「31日は月曜日にあたるため、ハロウィーン関連のイベントは前の週の金曜日から予定されている。 渋谷区の担当者は「人がいつ集まるか読めない」と嘆く。区は28日から11月1日まで、仮装のための更衣室や仮設トイレを渋谷駅周辺に設け、案内のための、駅周辺に職員やボランティアを計120人置く。 特に、トイレは深刻だ。 昨年の10月31日前後、区には「トイレに入れない」「街中で尿のにおいがする」といった苦情が相次いだ。百貨店などのトイレで若者が仮装するために着替えたり、メイクしたりしたため、買い物客がトイレを使えなく	

			なったからだ。」	
2016	10		原田曜平『平成トレンド史』 (KADOKAWA、1月) 「ハロウィンの盛り上がりは、インスタ消費の最もたるものでしょう。2012年度の段階だと、渋谷でコスプレしてハロウィンを楽しむというのは一部のパリピーいち早く流行に乗って騒ぐ「パーティーピープル」一だけでしたが(この時にはまだ「パリピ」という言葉も一般化していません)、2014年、2015年になるとテレビがハロウィンの様子を中継するようになります。2016年(平成28年)には地方都市でもハロウィンイベントが大々的に行われるようになり、ハロウィン関連市場は前年比11%増の約1220億円とバレンタイン市場を上回るようになります(原田 b 152-153)。」	
2016	10	アキバハロウィン(秋葉原)(継続中)		
2016	10	サカエハロウィン(名古屋市)(継続中)		
2016	10		渋谷駅東口商店会「渋谷ハロウィン仮装コンテスト」(継続中)	
2016	10		渋谷区、仮設更衣室や仮設トイレの設置	
2016	11		菊地悠人「ハロウィン市場膨張 アンチを味方にできるか」 (2016)で次のような記事を『週刊東洋経済』(第6693号、11	

			月 12 日号) に掲載している。 「博報堂ブランドデザイン若者研究所の原田曜平氏は、「10 月は若者が楽しめるイベントがこれまでなかった。男女のつながらないが必要なバレンタインと異なり、ハロウーンは友達同士などでも楽しめることが普及した要因」と分析する。 このビジネスチャンスに乗り遅れまいと各社が躍起になる中、ドンキホーテホールディングス（ドンキ）は、10 年以上前から仮装グッズなどを展開。当初は客の認知がほとんどなかったが、09 年ごろから急速に売り上げが伸び始め、昨年はクリスマス関連に迫るまでになった。 今年も渋谷店では、最も目立つ 1 階店舗入り口から店内奥深くまで仮装グッズを所狭しと陳列。特に女性客は「他人とかぶらりたくない」というニーズが強いことから、年初から動き始めて 1000 種類以上のアイテムを取りそろえた。ピーク時のハロウィーン直前には 1 日で 1 万人超が来店。今年の売れ筋はピカチュウやマリオなどのコスチュームだったようだ。 さらに今年初めの試みとして、渋谷店の近くのビル 2 フロアを使い、10 月 21 日～31 日の期間限定店舗をオー	
--	--	--	---	--

			ブン。仮装グッズの販売やお化け屋敷の運営などビジネスを展開しつつ、渋谷区役所の協力要請を受けて不足する更衣室やトイレなども提供した。 このように企業側が街の秩序形成のために自治体とタッグを組むのは、一部の度を越した騒ぎに不愉快な思いを抱いている人が少なからずいるからだ（菊池 380）。」	
2016	12		渋谷カウントダウン実行委員会（渋谷区、渋谷区商店会連合会、渋谷駅前エリアマネジメント協議会）による「YOU MAKE SHIBUYA COUNTDOWN」	
2017	4		渋谷キャスト	
2017	5		MEGA ドン・キホーテシブヤ本店	木村正俊・松村賢一編『ケルト文化事典』（東京堂出版）には「ハロウィーン」の見よ項目として「サウイン」の項目がある。
2017		日本記念日協会・記念日文化研究所発表のハロウィーンの推計市場規模、1,305 億円 ⁽²²⁾		
2017	8		SHIBUYA109 前で盆踊り大会 ※渋谷道玄坂商店街振興組合が初めて実施。主催者発表で来場者は約 34,000 人だった。	
2017	10	畑中章宏「関東人が知らない『大阪ハロウィーン』～渋谷とはココが決定的に違う」（10 月 31 日） 「ハロウィーンのコスプレをした若者たちは、次から次に記念写真を		

		求めてくる外国人観光客に応じて、グリコサインを背景にポーズをとる。ハロウィン・コスプレイヤーに取材したところ、一緒に写真を撮ろうと声を掛けてくるのは、9割から6割合で外国人だという。そのほかに大阪ハロウィンの特徴らしいのは、仮装者がそれほど回遊しない点である。なかには戎橋から御堂筋を渡ったところにある「アメリカ村」に移動すると答えたコスプレイヤーも何組かいた。東京渋谷のハロウィンは、大小の通りが交差し、明るい道から暗い薄暗い路地へと、ゆるやかな起伏をそぞろ歩くことが、特徴であり魅力とみられた。こうした遊動性は大阪のハロウィンには少ないのである⁽²³⁾。」		
2017	10	「ハロウィンジャンボ宝くじ」「ハロウィンジャンボミニ」登場		
2017	12		渋谷カウントダウン実行委員会（渋谷区、渋谷区商店会連合会、渋谷駅前エリアマネジメント協議会）による「YOU MAKE SHIBUYA COUNTDOWN」	
2018	1			新村出編『広辞苑』（第7版）で「ハロウィン」として掲載。 「諸聖人の祝日の前夜（10月31日）に行われる祭り。スコットランド・アイルランドに起源を持つ収穫祭で、魔除けの意味を持つ（新村 d

				2406)。」 ※1991 年 11 月 (第 4 版)、1998 年 11 月(第 5 版)、2008 年 1 月(第 6 版)の定義の誤りが訂正された。
2018	1			小森真樹「祝日・祭日」中の小見出しの「移民の国の多様性」(アメリカ学会編『アメリカ文化事典』丸善)の中で「ハロウィーン」として次のような記述がある。 「地域特有の行事には移民文化を起源とするものも多い。フィラデルフィアでは、毎年元旦の朝からマーマーズ(仮装者のこと)と呼ばれる盛大な仮装パレードが催される。 17 世紀半ばに北欧からクリスマス翌日を祝う祭りがもたらされ、それが 19 世紀頃までには、新年の祝いへと変わるとともに、ドイツ系移民に由来する新年に仮装して友人たちを訪問する習慣が混じり合って現在のマーマーズのもとになった。入植者たちが持ち込んだ祭りや習慣が融合して、今では宗派や民族を超えて皆が楽しむ催しとなっている。アイルランドの死の神サムハインの祭りがキリスト教と融合して成ったハロウィーンと同じように、多様な文化が混じり合った祭日である。これらに見られる文化的混交こそがアメリカ的だというとなえ方もできる(小森 503)。 ※イギリス文化事典編集委員会編『イギリス文化事典』(丸善、2014 年 11 月)には「ハロウィ

				ーン」の項目なし、言及なし。
2018	2			平昌冬季オリンピック
2018	3	リー・アンクリッチ監督『リメンバー・ミー』の日本公開		
2018	6		サッカー、ロシアワールドカップ ※対コロンビア戦後、渋谷スクランブル交差点でハイタッチムーブメント。DJ ポリス登場。	
2018		日本記念日協会・記念日文化研究所発表のハロウィーンの推計市場規模、1,240 億円 ⁽²⁴⁾		
2018	8			けやき坂 46『ハロウィンのかぼちゃが割れた』
2018	9		渋谷ストリーム 渋谷ブリッジ	
2018	10		『読売新聞』10 月 18 日夕刊第 10 面 渋谷区「瓶のお酒販売自粛して」 ハロウィーン対策 東京 ◆割れて「けが」「パンク」防止 10 月 31 日のハロウィーンに向け、東京都渋谷区は、渋谷駅周辺のコンビニなど酒類を扱う店舗に対し、瓶に入った酒の販売を自粛するよう初めて求める。 ハロウィーン前後の数日間は例年、渋谷駅前のスクランブル交差点に仮装した若者らが集まり、大混雑となる。区によると、酔った勢いで酒瓶が割られることも多いといい、けが人の発生や車のタイヤパンクなどを防ぐため、瓶に限り販売自	

			肅を求めることにした。 また、仮装した人たちが夜通し街を練り歩くことで、ごみが散乱し、飲食店の看板が壊されるなどの迷惑行為も相次いでいるという。こうしたことから、区は、終電までに帰宅するよう、SNSなどを通じて呼びかけることも決めた。 長谷部健区長は「街がにぎわうのはうれしいが、安全も確保しなければならない」と話している。	
2018	10	『朝日新聞』10月19日朝刊第8面 ハロウィーン市場 変身したい 習慣定着 成長は頭打ち らくらく仮装・赤ちゃん向け…幅広い層狙う ・「31日のハロウィーンが近づき、オレンジ色の商品が売り場に並ぶなど商戦が熱を帯びている。毎年恒例となってきた半面、市場の成長は頭打ち気味だ。各社は、「本番の日」の前から盛り上がるイベントを工夫するなどして、売り上げを伸ばそうとしている。 ハロウィーンは、米国で10月31日に仮装した子どもが菓子をもらいに回る習慣が定着した。日本でも1990年代後半から若者や子育て世代を中心に盛り上がり、2010年前後からメーカーや小売り各社が商戦を本格化させた。日本記念日協会に		

		よると、16 年の市場規模の推計は 1345 億円で、5年で2倍以上に急成長。バレンタインの市場も抜いた。ただ、昨年は前年比 3 %減の 1305 億円で、今年も 3 %減を見込む。そんな中、各社新たな需要を開拓しようと知恵をしぼり出している。」		
2018	10		『日本経済新聞』10月24日朝刊第35面 ハロウィーン、節度守って楽しんで 瓶入りの酒類販売自主要請 ・23日の記者会見で長谷部健区長は「ハロウィーンの様相がだんだん変わってきた。人が集まりすぎて危なくなっている」と指摘。 「節度を持ってマナーをもって遊んでほしい」と呼びかけた。 区は渋谷駅周辺のコンビニエンスストアなど17店に瓶入りの酒類の販売自粛も要請する。期間は31日午後6時から11月1日午前6時まで、昨年までのハロウィーンでは割れた瓶が路上に散乱する事例が相次ぎ、車がパンクしたり通行人がけがをしたりする恐れがある。 仮装に着替える「フイッティングルーム」も用意する。例年、渋谷駅や百貨店のトイレで着替える人が多く、一般客が利用できない事態が起きていることに対応する。	
2018	10		『朝日新聞』10月27日夕刊第7面	

			ハロウィーン身構える 渋谷 ごみ清掃・DJ ポリス・酒瓶の自粛要 請... ・「地元商店街などで つくる「ハロウィン」 ごみゼロ大作戦 in 渋 谷」は3年前から、周 辺施設を汚さないため の対策をしてきた。今 年も、土曜日の27日 から週明けの11月1 日早朝、ボランティア による清掃を行う。 一方、仮設トイレや更 衣室、ごみを回収する エコステーションの設 置は、「ハロウィーン は31日に楽しむもの (担当者)だからだ。 当日は楽天が運営す るフリマアプリ「ラク マ」が協賛。路上に 捨てられることも多か った衣装などを回収し て販売し、売り上げを 美化活動の費用などに 充てる。 ・「区はハロウィーン に合わせて今回初め て、周辺のコンビニエ ンスストアなど計7店 舗に、31日午後6時 から翌1日午前0時ま で、瓶に入った酒類の 販売を自粛するように 要請した。」	
2018	10		『朝日新聞』10月29 日朝刊第35面 ハロウィーン荒れる渋 谷 軽トラ横転させ る・暴行や盗撮疑い ・「ハロウィーン直前 の週末になった27日 深夜から28日未明に かけて、東京・渋谷で は仮装した人たちが集 まり、軽トラックが横	

			転させられるなどトラブルが相次いだ。 渋谷署によると、28 日午前 1 時ごろ、渋谷区宇田川町の「センター街」の路上で、人混みで前にすすめなくなった軽トラックの荷台に複数の人が乗って踊り、車を持ち上げて横転させた。 ・「ハロウィーンでは近年、ごみの放置や参加者同士のトラブルが続いていたことから、渋谷区は今回、瓶に入った酒類の販売自粛を呼びかけるなど対策を強化。本来のハロウィーン当日である 31 日にマナーを守って楽しむように呼びかけていた。	
2018	10		『東京新聞』10 月 31 日朝刊第 22 面 主催者なし、ステージのような魔力 渋谷ハロウィーン マナー守って」 ※佐々木も「「仮装しているの、普段より思い切った行動を取りやすい。そこに集団心理も相まって、突飛な行動に走る人も出てくるのでは」と話す。ここに酒の力が加われば、過激さも増す。」コメントを寄せた。	
2018	10		山内輔「薄まる集団ー再び、渋谷ハロウィン」、松井剛編、『ジャパニーズハロウィンの謎 若者はなぜ渋谷だけで馬鹿騒ぎするのか?』(星海社、2019 年 9 月) 「2018 年の 10 月 31	

			日、都心ではほかのハロウィンイベントは存在しなかった。渋谷以外の大規模なハロウィンイベントは基本的に土日に開催されていて、水曜日の 31 日には皆が渋谷に集まってくるというカラクリだ。 さらに土日から水曜にかけて、メディアの報道が過熱する。2018 年では 28 日未明の軽トラ事件を契機に、報道番組で特集が組まれ、朝から晩までハロウィンの話題がお茶の間を騒がせた。ツイッターでは、トレンドをハロウィンが独占し、活発な議論が行われていた。こうした影響から、人々の中で渋谷に対するイメージが構築されていく。 渋谷という街は、若者にとって「自分の欲のままに生きることができる」「なんでも許してもらえる」唯一の場所なのだ。このイメージを定着させたものもまた、メディアや SNS なのであろう（山内 211-212）。」	
2018	10		2018 年の渋谷ハロウィンについて 「…非日常化、劇場効果は「渋谷」、都会のど真ん中という点が大きい。平日や昼間では絶対にありえない、また、絶対に許されないことであるが、「とりあえずビール」ではないが、「とりあえず渋谷」に行けばなんと	

			かなるといった漠然として考えを持った若者、どんな感じか1度行って見てみたいという思いの頂点が2018年に訪れたということだろうか。また、「自由」の意味をはき違えてはいるが、渋谷なら若者が自由に動けるといった様相があるのもまた要因のひとつだろう（佐々木 d 411）。」	
2018	10		「さらにこの渋谷のハロウィン、実は主催者は存在しない。故に、何ら目的があるわけでもないのである。2018年の軽トラック横転事件は未だ記録に新しいが、彼らは何か主張があつて車を横転させたわけではないのだ。こうなると、阿鼻叫喚とも揶揄されるこの渋谷の様相は、ハロウィーン、というよりはむしろ日本有数の盛り場における喧嘩が、沸点を迎える瞬間を、楽しむものなのではないかと思う。 さらに、主催者がいないという点を言い換えれば、誰が始めたかもわからないということになるだろう。故に、このハロウィーンは「自然発生的に生じた」とされ「若者が集まる場としての渋谷」という場所の性質から了解される（谷津 11-12）。」	
2018	11		『朝日新聞』11月1日朝刊第1面 警備もスクランブル	

			(詳細は 31 面記事) 「ハロウィーン本番の 31 日夜、東京・渋谷駅周辺には大勢の人が集まり、警視庁が厳戒態勢を敷く中、スクランブル交差点を行き交わった」 ハロウィーン 渋谷厳戒 交差点数百人で警備 痴漢容疑など 2 人逮捕 スクランブル交差点付近では、警視庁の機動隊員数百人規模で待機。「JD ポリス」が車上から歩行者を誘導したほか、午後 7 時前からは人混みを分散させるため、交差点につながる文化村通りと道玄坂の一带を車両通行止めにした。」	
2018	11		『朝日新聞』11 月 2 日朝刊第 33 面 う若者 大荒れ渋谷ハロウィーン ・「立ち上げから関わる「チッタエンタテイメントの土岐一利・常務取締役プロモーション本部長は、川崎は地域活性化のため、組織でイベントを運営しているといい、渋谷は自然発生的なのが一因では、とみる。」 ・長谷部区長 「過激化の心理については「仮面や仮装で誰か分からない状態に心が大きくなってしまって不法行為が増えた」とみる。来年は顔認証のテクノロジーを活用して参加を有料制にすることやパレード形式、代々木公園への誘導な	

			どを検討しているという。」 ・「コラムニストの堀井憲一郎さん（60）は、「区長が言うことはわかるが、とても残念」と話す。「自然発生した若者中心の祭りを大人たちは把握し、管理したいと思っていたところに、先週末トラックが横転させられる事件が起きてしまった」。堀井さんが調べたところ、60 年以上前にはクリスマスイブに若者らが騒ぎ、問題となっていた。」	
2018	12		渋谷カウントダウン実行委員会（渋谷区、渋谷区商店会連合会、渋谷駅前エリアマネジメント協議会）による「YOU MAKE SHIBUYA COUNTDOWN」⁽²⁵⁾	
2019	3		渋谷ソラスタ	
2019	4		長谷部健、渋谷区長（現職）（第2期）	
2019	6		渋谷駅周辺地域の安全で安心な環境の確保に関する条例	
2019		日本記念日協会・記念日文化研究所発表のハロウィーンの推計市場規模、1,155 億円 ⁽²⁶⁾		
2019	7		佐々木隆「渋谷のハロウィンとスクランブル交差点」（『むらおさ』第30号） 「ハロウィンの時期に渋谷に若者が集まってくる要因は次のように整理できるのではないだろうか。 一 もともと渋谷は若者の街としてファッションや流行のものが集	

		まっていた。 二 二〇〇二年の日韓ワールドでスクランブル交差点でのハイタッチ・ムーブメントが行われ、その後もワールドカップでの日本代表の活躍にリンクして断続的に行われていた。 三 二〇一五年、二〇一六年と渋谷区などの行政側も加わり、スクランブル交差点でカウントダウンイベントが開催された。 四 ハロウィン市場規模拡大が二〇一五年に訪れ、同じ時期にスクランブル交差点でのカウントダウンイベントが開催されたことに触発され、まずは渋谷に集結し始めた。 五 スクランブル交差点、道玄坂、文化村通りは道幅もひろく、交通量も多い。また、道玄坂は路線バスの経路になっている。このため、渋谷駅前の待ち合わせ、その後、センター街への移動という流れが出来上がった。 六 センター街やその周辺には東急ハンズ、西武のロフト、ドン・キホーテをはじめ、いわゆるハロウィングッズを大量に扱う店がある。 七 マスコミに報道もあるが、SNSを通して渋谷に行けば何か楽しいことがある、また、インスタ映えする写真が撮れると期待して、とりあえず渋谷に言ってみる。二〇一六	
--	--	--	--

			年八月のリオオリンピックの閉会式では日本のへの引継ぎセレモニーの映像は実質的には渋谷のスクランブル交差点から始まっている。 八 日常ではあり得ない、非日常化（劇場効果）を体験してみたいという気持ちから友だちと渋谷に行ってみようという気持ちが生じる。 九 外国人もインターネットを通して渋谷スクランブル交差点の存在を知り、さらに海外の映画では『ロスト・イン・トランシェーション』（二〇〇三）、『ワイルド・スピード X3 TOKYO DRIFT』（二〇〇六）、『バイオハザード IV アフターライフ』（二〇一〇）が渋谷も舞台となっている（佐々木 d 15-16）。」	
2019	9			ラグビー・ワールドカップ日本で開催（2019 年 9 月 20 日～11 月 2 日） 松井剛編『ジャパニーズハロウィンの謎 若者はなぜ渋谷だけで馬鹿騒ぎするのか？』（星海社）
2019	10		LINE CUBE SHIBUYA	消費税 10%増税（1 日） 台風 19 号（12 日～13 日）
2019	10		『日本経済新聞』10 月 21 日朝刊第 5 面 ハロウィーン 渋谷で酒販売自粛へ コンビニなど検討、区の要請で 「渋谷区は、ハロウィーン前の週末の 26 日～27 日、当日の 31 日	

			～11月1日の各午後5時から翌午前5時に酒類全般を販売しないように要請している。昨年は冷蔵で販売されている瓶入りの酒類だったが、範囲を広げた。対象は酒類を取り扱うコンビニなどの小売り店舗。」	
2019	10		『朝日新聞』10月25日夕刊第13面 若者酔って過激化…昨年は軽トラ横横倒し・窃盗・わいせつで逮捕者 渋谷ハロウィーン ノンアル作戦 DJ ポリス出動 道路封鎖も 「区は今年6月、ハロウィーンやその前の週末、年末年始などに、渋谷駅周辺の路上や公園で飲酒したり、大音量で騒いだりすることを禁じる条例を制定。民間警備員の配置や仮設トイレの設置などに約1億3000万円の予算を組んだ。」 「条例の制定を区に要請してきた渋谷センター商店街振興組合の小野寿幸理事長は、「条例ができたことは喜ばしいが、こんなに税金を使うと思うとやりきれない。もし去年のような事件が起きたら、来年以降はセンター街を封鎖すべきだ」という声が高まるだろう」と話した。」	
2019	10		『毎日新聞』10月26日夕刊第9面 「大人の学園祭」楽しみ方 厳戒ハロウィーン まずは節度守って地元はこりこり	

			「ハロウィーンは仮装して悪霊を追い出す古代ケルト人の祭りが起源とされる。ケル人が年末とし10月31日に秋の収穫も祝われた。日本では東京ディズニーランドのイベントなどを機に広が1990年代半ばから知名度が上がった。 渋谷センター商店街振興組合の小野寿幸理事長(78)を訪ねると、昨年の混乱を思い出したのか「あんな連中はもう来ないでほしい」と怒りをにじませる。 「彼らは飲食店に入らず、コンビニで酒を買うくらい。経済効果はゼロどころか、マイナスだ」と語った。 渋谷区は対策として渋谷駅周辺の路上や公園での飲酒を禁止する条例を制定した。長谷部区長は24日の記者会見で警備や啓発活動に臨時予算1億円を投じることを説明し「迷惑行為をせずに楽しみ、終電までに帰ってほしい」と節度ある行動を呼び掛けた。 厳しい規律課す ・一方、厳しい規律を設けるのがIT関連会社ドワンゴなどが2014年から開催する「池袋はハロウィンコスプレフェス」だ。ドワンゴによると昨年の来場者は2日間で計約10万5000人。このうち約2万人がコスプレの参加者で、専用更衣室で着替えて池袋駅東	
--	--	--	---	--

			口のステージやパレードへと飛び出していくという。 目を引くのは「コスプレをしたままの来場及び退場禁止」「(男性が女装する場合)き毛、すね毛、ひげは処理する」などの注意事項だ。共催に豊島区やサンシャインシティなど地元の役所や企業が名を連ね、周りへの配慮がうかがえる。 ドワンゴ社員でプロデューサーの橋口雄樹さん(33)は「安心安全が絶対」と強調する。 26日に主催者側が貸し切る飲食店でコスプレイヤーがアルコール込みで交流会する企画「池ハロティーパーティー」を初めて開くが、「コスプレイヤーは行儀がいい。問題を起こせばコスプレの地位が落ちると思っているので大丈夫」と言い切った。 地味な仮装競う ・渋谷では「地味ハロウィン」(地味ハロ)と呼ばれるイベントも27日に開催される。 「CM明けに正体がわかる大物俳優 M」「自分の番でシュレッダーがいっぱいになった人」など、地味でリアルな「あるある感」を楽しむ仮装をした人たちが集まる。発案したウェブ雑誌「ディリーポーZ」編集長の林雄司さん(48)は「渋谷のハロウィーンとは一線
--	--	--	---

		を画す文化系とトンチ」の祭り」と表現する。 開始は 14 年。昨年は 800 超が集まって時間切れで全員がステージに上がれなかった。毎年仮装姿で司会を務める林さんは人気を集める理由について「自分は地味だが、(渋谷に象徴されるような) 派手な人をからかって承認欲求も満たされたい人たちの気持ちに刺さっているような気がする」と話している。 歴史浅く違って当然 海外由来の祭りについて考察しているコラムニスト、堀井憲一郎さん (61) の話 ハロウィーンにかこくついているだけで実体は学校を卒業しても楽しめる「大人の学園祭」。お金もかからず、参加も強制されない。輸入されて歴史が浅いものだから楽しみ方がバラバラなのは当然でそれぞれがそれぞれに楽しめばいい。」	
2019	10	『読売新聞』10 月 27 日朝刊第 37 面 ハロウィーン 渋谷 「お酒なくても楽しい」 「31 日のハロウィーンを前に、東京・渋谷駅周辺には 26 日夜、アニメキャラクターやゾンビなどに扮 (ふん) した大勢の若者らが集まった。昨年、若者に車がひっくり返されるなど騒乱が起きた	

			ことを受け、渋谷区は対象地域での路上飲酒を禁じ、酒の販売の自粛を求める条例を6月に制定した。この日は警察官や警備員が厳戒態勢にあたり、路上飲酒する人たちを注意して回った。 「今年は警察官の数が多くて驚いた」。26日夕、アニメ「銀魂（ぎんたま）」の主人公に仮装して渋谷を訪れた東京都世田谷区の会社員中山智貴さん（27）は話した。 昨年ハロウィーンでは酒に酔って軽トラックを横転させるなどして計27人が逮捕。このため、渋谷区は今年、10月25～27日と31日～11月1日に路上飲酒を禁止し、10月26日と31日の午後6時～翌日午前5時を酒類販売の自粛期間とした。 中山さんは「最初は飲酒の禁止でつまらないと思ったが、お酒が飲めなくても楽しい」と渋谷センター街を練り歩いた。ただ、路上には缶酎ハイを飲む若者らの姿も。3人1組で巡回する区職員が「路上でお酒を飲むのは条例違反。ゴミ箱に捨てて」と注意を促した。 渋谷駅の周辺には26日夕、防犯カメラが付いた監視台が25台設置された。警備員が台の上から「車道に出ないで」と拡声	
--	--	--	--	--

			機で注意を呼びかけ、「路上で飲酒、喫煙、座り込みをしてはいけません」という日本語と英語の音声 flowed。警視庁も機動隊員の「DJ ポリス」らを配置した。 「MEGA ドン・キホーテ渋谷本店」やコンビニ店の大半は、酒の陳列コーナーをブルーシートで覆うなどして販売を自粛。渋谷区道玄坂の「富士屋酒店」の清水良一社長（85）は「『売らない』と断ったら殴られるかもしれないし、怖い」と語り、店じまいを2時間繰り上げて午後6時に閉めた。」	
2019	10		『朝日新聞』10月28日朝刊第28面 ハロウィーン禁酒条例効果は 渋谷の街静か「理由わかる」 ゴミの量が半減「よかった」 ・「渋谷区の条例は、今年、10月25日～27日、31日の午後6時～翌朝5時まで」「27日は翌午前0時まで」、スクランブル交差点やセンター街周辺を路上飲酒禁止の対象エリアとした。区はこの区域にある41店舗に酒類の販売の自粛を求め、おおむね協力を得られたという。」 ・「渋谷区によると、金曜夜から日曜早朝にかけて、区職員が路上飲酒禁止などを指導した件数は20件、38人。目立ったトラブル	

			はなかったという。区では例年人出が一番多い 31 日に、警備員を 140 人程度まで増やすことを検討している。」	
2019	10		『読売新聞』10 月 31 日朝刊第 27 面、都民「きれいなハロウィーンに」 渋谷の児童 騒乱解決策 区長に提出 「31 日のハロウィーンを前に、渋谷区立幡代小学校の 6 年生 90 人が渋谷駅周辺で昨年秋に起きた騒乱の解決策を意見文としてまとめ、長谷部健区長に提出した。 「大人の勝手な行動で自分たちの街のイメージが悪くなるのは困る」といった意見も寄せられ、長谷部区長は「今後の施策の参考にしたい」と応じた。 提出したのは 28 日。児童たちは、国語と総合的な学習の時間を活用し、4 月から週 1、2 時間のペースで学習を進めてきた。 昨年秋のハロウィーンでは、酒に酔って路上の軽トラックを横転させるなどして計 27 人が逮捕された。児童たちは報道や SNS の投稿を見ただけでなく、渋谷駅員や警察官らへのインタビューや、渋谷センター街近くの小	

		学校の児童を対象にしたアンケート調査なども実施してきた。 同校によると、学習が進むにつれ、児童から「子供は学校や地域のルールを守っているのに、大人はなぜルールを破るのか」との疑問が噴出したという。「渋谷センター街だけでなく、代々木公園など集結場所を分散させる」「路上にアルミ板を敷いて空き缶をポイ捨てしたら音が鳴って目立つようにする」といった具体的な解決策が示され、各自で意見文を書き上げた。 「ゴミを捨てると音楽が流れる『捨てたくなる楽しいゴミ箱』を置くよう提案した山田望愛（のあ）さん（11）は「（昨年秋の騒ぎは）お酒の影響と集団心理によるものだと思う。興味を持ってもらえるゴミ箱の設置が必要だ」と訴えた。米倉心晴（こはる）さん（12）は「渋谷は自分が生まれ育った場所で、『汚い』とは言われたくない。今年はきれいなハロウィーンにしてほしい」と呼びかけた。」	
2019	11		『読売新聞』11月1日夕刊第11面

		ハロウィーン9人逮捕 渋谷 痴漢、暴行、スリ容疑 「ハロウィーンの 10 月 31 日から 11 月 1 日朝、仮装した若者らが集まった東京・渋谷で暴行や痴漢、スリをしたなどとして、警視庁は少年 5 人を含む 15 ～51 歳の男 9 人を逮捕した。 渋谷署幹部によると、渋谷駅前の繁華街では、酒に酔って路上でけんかをし、止めに入った機動隊員の顔を殴った男子大学生 (22) ら 2 人を公務執行妨害容疑で逮捕したほか、ゲームセンターで男性店員 (31) の顔を平手打ちした少年 (19) ら 2 人も暴行容疑で逮捕した。 身動きが取れないほどの人混みとなった渋谷駅のハチ公前広場では、女性の尻を触ったとして男 (40) ら 2 人を東京都迷惑防止条例違反 (痴漢) 容疑で逮捕。近くにいた男性のズボンのポケットから財布を抜き取った大学 2 年の男 (19) も窃盗容疑で逮捕した。 昨年のハロウィーンで酒に酔った若者らが路上で軽トラックを横転させるなどの事件が起きたため、今年は渋谷区が路上飲酒を禁止した。今年の人出は昨年より少なかったとみられる。」	
2019	10	佐々木隆「渋谷ハロウィーンから見えるもの」	

			(『日欧比較文化研究』第23号、日欧比較文化研究会) 「渋谷ハロウィンから見えるものは、意味を失った海外の祝祭をイベント化した日本の文化の「寛容さ」である。しかし、この「寛容さ」が新たな問題を引き起こしたのである。外来の祝祭の日本への受容についての研究もなされているが、クリスマスやバレンタイン・デーとは異なった様相をみせているのが、「渋谷ハロウィン」である。 ハロウィンを導入したのは当初は商店等から始まり、1983年には原宿キデイランド主催によるハロウィン・パレードが開催された。1997年にカワサキハロウィン(10月25日、26日)、同年に東京ディズニーランド「ディズニー・ハッピーハロウィーン」(10月31日限定で開催)、2011年にユニバーサル・スタジオ・ジャパン「ハロウィーン・ホラーナイト」が広めたといったよいだろう。限られた時空で行われていたハロウィンが渋谷という若者の集まる街で自然発生的に行われるようになった。しかし、それ以前に2002年のワールドカップの渋谷スクランブル交差点でのハイタッチムーブメント以後、禁止されることなく、	
--	--	--	--	--

			容認されてきた。その流れはスクランブル交差点から渋谷センター街へと舞台を変えた。宗教的な意味、聖なる意味をなくした「ハレ」は、「特別な日に人々が集まる所」という意味合いを変えて「渋谷ハロウィン」という現象を巻き起こした。 若者にとっては渋谷センター街やスクランブル交差点は、宗教的な意味、聖なる意味をなくした「特別な日に人々が集まる所」として、若者を中心にインターネットやメディアによって新たな一過性の聖地になっているのかもしれない（佐々木 c 65-66 一部修正あり）。」	
2019	11		『朝日新聞』11月2日朝刊第27面 渋谷ハロウィーン条例 後本番 大きなトラブルなし 酔っ払い・ゴミ・けんか減った ・「今年のハロウィーンが終わった。トラブル防止のため、渋谷駅周辺の公園や路上での飲酒を禁止する区の条例が施行されて初めて迎えた本番に、区は啓発や警備に1億円以上を投じたほか、警視庁も厳戒態勢で臨んだ。区によると、条例を知らない外国人が飲酒したり、深夜に大音量で音楽を流す車が集まったりはしたものの、大きなトラブルはなかったという。」	

			・同庁幹部は「昨年の軽トラックが横転させられたような事件が繰り返されぬよう、最大限の警戒ができた」。重久真毅・警備1課長は区の見守りについて「路上飲酒が少なくなつてトラブル防止の観点からよかった。外国人が増えて言葉が通じない場面もあったので、今後の課題としたい」としている。」	
2019	11		渋谷スクランブルスクエア（東棟） 国内初の任天堂オフィシャルショップ、 NINTENDO TOKYO （渋谷 PARCO 6F）	芥見下々『呪術廻戦』（八三話「渋谷事変①」）※『週刊少年ジャンプ』。場面は2018年10月31日。
2019	12		渋谷フクラス	即位礼正殿の儀
2019	12		渋谷カウントダウン実行委員会（渋谷区、渋谷区商店会連合会、渋谷駅前エリアマネジメント協議会）による「YOU MAKE SHIBUYA COUNTDOWN」（内閣官房が推進する「beyond2020 プログラム」の認証文化プログラム） ⁽²⁷⁾	

4 渋谷ハロウィーン背景

(1) 戦後～1982年：日本のハロウィーン受容状況

戦後になるとアメリカ文化が急速に日本に流入してきたのは周知の通りだ。英語教育や社会科教育の中の異文化理解の一環としてハロウィーンが雑誌等でも紹介されていた。注目しておきたいことは3つある。第1は在日米軍の家族等の影響である。戦後まもなく横浜でかぼちゃ祭が開催され（本牧の会あゆみ研究会編 92）、代々木に建設されたワシントンハイツの住民がおもちゃのグッズを求めて原宿キディランドを訪れていた。原宿キディランドは1950年11月オープンしていた。ワシントンハイツがなくなっても在日の外国人がキディランドを訪れ、やがてハロウィーングッズを求めるようになった⁽²⁸⁾。戦

後、特に 1964 年の東京オリンピックを契機に国際化の動きもあるが、教育等でも英語教育が積極的に導入されていたこともあり、欧米の年中行事の紹介としてハロウィーンも取り上げられるようになったことは、教育系の雑誌の掲載状況からもその一端を見ることができる。一方、1960 年代になると渋谷には東急、西武などの百貨店が登場すると共に、渋谷、新宿、六本木、赤坂にはディスコも次々とオープンした背景も無視できるものではない。

1970 年代になると、子どものためのハロウィーンの流れとしてハロウィーン用のお菓子の販売が始まった。1976 年のモロゾフによるハロウィーンキャンディフェアはその後の流れを作る大きな試金石となった。モロゾフは戦前に早くもバレンタインデーのチョコレートの販売を始めるなど、欧米文化を意識した動きを見せていた。若者を惹きつけたと言う点では、1978 年 7 月に映画『サタデー・ナイト・フィーバー』が日本で公開されたことは注目しておきたい。ディスコ・ブームが訪れることになるが、若者を集める素地がさらに整うことになる。ディスコの大衆化が進む。輪島裕介「ダンス都振付けの間 日本のディスコ史から考える」(2021) でも次のように指摘する。

映画『サタデー・ナイト・フィーバー』の流行によって、それまで基本的に「不良」の遊び場であり、あるいは六本木のいくつかの店のように米軍将兵とパートナーの日本人女性の間でもあったディスコの大衆化が進む(輪島 52)。

また、1979 年 3 月に公開された映画『ゾンビ』、同年 9 月に公開された映画『ハロウィン』はその後のホラー映画ブームの先駆的な役割を果たした。怖いハロウィーンの下地を作った。1975 年 12 月には第 1 回コミックマーケットが開催され、オタク文化が形成されていく大きな素地となったが、いわゆるコミケにコスプレイヤーが登場するのも 70 年代後半とも 80 年代とも言われる。1970 年代までに子どもや若者がハロウィーンを楽しむ素地となる、お菓子、ホラーの要素、コスプレ、パーティなどで騒ぎ街に繰り出すといった背景が揃うことになった。渋谷もその後の大きな象徴となるスクランブル交差点も 1973 年に登場することになり、若者を集めるファッションやバラエティグッズを集めるパルコ Part1、Part2、東急ハンズ、ファッションコミュニティー109(後の SHIBUYA109) が次々とオープンした。

1979 年、SHIBUYA109 が「ファッションコミュニティー109」としてオープンした時、テナントがメイン顧客層としていたのは 20 代後半から 30 代の女性でした。そして 1989 年(平成元年)には、名称「SHIBUYA109」に変更し、より若い層を取り込もうとします。

大手ブランドではなく、若い経営者が運営するブランドのテナントを積極的に入居させる。まだ海のものとも山のものともつかず、デパートなどにはなかなか入れなかったブ

ランドをどんどん入れていくとで、若者文化の情報発信地を目指し、大成功したのです（原田 b 65-66）。

パルコから東急ハンズへの人の流れが渋谷センター街を通る道筋でもあり、注目に値しよう。

1980年代初頭はハロウィーンに関連する重要な動きがあった。1981年には全国菓子協会によるハロウィーンキャンペーンが開始され、クリスマス商戦前にデパートが仕掛けたハロウィーン商戦が繰り広げられるようになった。これにより多くの人に「ハロウィーン」というイベントが知られるようになる素地を形成することになった。これに加えて、ハロウィーンに関連した映画や恐怖を掻き立てる映画が1980年代初頭に『13日に金曜日』、1982年5月にはハロウィーンの日宇宙人がやって来て、子どもと交流するという映画『E.T.』の公開もあったが、同月には映画『ハロウィーンⅡ』も公開された。

しかし、これらの動きが世間一般にハロウィーンを周知させたかどうかという点では、必ずしも言い切れないだろう。映画『E.T.』ではアメリカのハロウィーンの様子が垣間見られたことから背景としては注目しておきたい。

（2）1983年～1996年：日本のハロウィーン受容状況

日本のハロウィーンが前面に出てきたのは1983年10月の原宿キディランドが主催したハローハロウィーンパンプキンパレードだろう。この時は子どものためのハロウィーンであった。このパレードの主催者は変わったものの、現在でも継続されている。子どものためのハロウィーンを守り続けている。このキディランドが主催したハロウィーンパレードが起爆剤になってか、商店街が地元の子どものためにハロウィーンのイベントを開催する動きが出来た。『読売新聞』（1987年10月18日朝刊第23面）には恵比寿、代官山の商店街が企画したハロウィーンイベントに2000人が集まったことが記事として掲載されている。ここででも「主催者は子供たちに、意表をつく仮装で、小さな楽器を持って集まり、盛り上げて欲しいと呼びかけている」とあるように子ども達に楽しんでもらいたいというのが大きな狙いである。このイベントは前年も行われた。

原宿以外には少なくとも確認できたところだけでも全国的にも1988年に六甲アイランドハロウィン（神戸）、1989年に本牧かぼちゃ祭り（横浜）、1989年にさがみおおのハロウィン（相模大野）といったハロウィーンのイベントを開催されている。

『朝日新聞』（1987年10月28日朝刊第19面）にはハロウィーンの不気味さに注目している。ここでは「ハロウィン、どうする？」というのが、いま、若者のあいさつがわりになっている。」との記事を掲載している。同新聞の記事には「ハロウィンという言葉が広がったのは昭和53年ごろ公開された米国映画「ハロウィン」から。それにつづく「バーニング」「13日の金曜日」など。若者たちが次々と残酷に殺されていく恐怖残酷映画の

走りとなった作品で、日本の若者にも強烈な印象を残した。さらに、一昨年 12 月には少女向けの月刊漫画雑誌「ハロウィン」(朝日ソノラマ)が発刊された。オカルトや恐怖物専門で、実売 12 万部を越え、中高校生の女子に強い人気がある。」とある。最も注目しておきたいのは同記事の後半に「若者が集まる六本木のディスコの夜に仮装パーティをすることで出てきた」とあり、1980 年代にはハロウィーンパーティが繁華街で開催されていたという背景があったということは若者のハロウィーンを醸成する意味で大きな意味がある。当然、そこではアルコールが入り、そのパーティが終わった後の行動もパーティの雰囲気を引きずるであろうことは想定できることだ。新宿、六本木、渋谷などパーティ後にはしごにして騒いでいたという背景がすでにこの時期にあったと見るべきだろう。都内のディスコ状況は 1968 年に赤坂に「ピブロス」がオープン、1971 年に「メビウス」がオープンしている。1978 年 7 月に日本公開のジョン・トラボルタ主演、ジョン・バダム監督『サタデー・ナイト・フィーバー』の人気により、六本木をはじめ、新宿、渋谷、池袋などの繁華街に多数のディスコが開業した。筆者もこの大学生活を過ごしており、渋谷でのフィーバー振りを体験している。コスプレ等の記事をたどると、ディスコ「GOLD」(芝浦)で 1994 年 10 月 16 日にコスプレイヤーが集まるパーティ開催。593 人動員(増田 180)、ディスコ「GOLD」(芝浦)で 1 月 29 日にコスプレイヤーが集まるパーティ開催(増田 180)、ディスコ「GOLD」(芝浦)で 5 月 5 日には 1025 人動員(増田 180)、ディスコ「ヴェルファーレ」(六本木)では 1995 年 9 月 3 日にコスプレイヤーが集まるパーティ開催。1221 人動員(増田 180)など、ハロウィーンとは関係はないが、コスプレパーティが開催されており、ハロウィーンの時期にパーティが開催されていても何ら不思議ではない。

『朝日新聞』(1987 年 10 月 28 日)では子どもにはお菓子や仮装といったところに焦点を当てていたのに対して、若者には「不気味さ」が受けているのがこの時期のハロウィーンの一面であるとの指摘である。子どもや若者をターゲットにしたものとしては 1991 年にはサンリオピューロランド「ハブ・ア・ハッピーハロウィン」、1992 年には東京・二子玉川のナムコ・ワンダーエッグの「ハロウィンイベント」の開催があった。テーマパークで開催された最初のハロウィーンイベントだろう。なお、ナムコ・ワンダーエッグは 2000 年に閉園した。しかし、こうした企画によってハロウィーンが周知されたかどうかははっきりしない。

外国人に日本人も含めた 500 人がハロウィーンの時期に仮装して大暴れしたという記事が『日刊スポーツ』(1992 年 11 月 1 日朝刊第 20 面)に掲載されている。新宿と渋谷の間の山手線内での出来事だ。記事によれば「渋谷駅では昨年の 10 月 31 日も電車内の照明が割られるなどの被害が続出」とある。1991 年と 1992 年のハロウィーンの時期にこうした騒動があったということだ。詳細は書かれていないが、ここに酒の力が働いていたということは想像できる。1989 年 10 月にはモロゾフが主催して JR 新宿～千葉間で「ハロウィーンエクスプレス」を運行、さらに 1991 年 10 月にはモロゾフは船上パーティを開くなど、

ハロウィーンパーティが開催されていた背景があったことも忘れてはならないだろう。

一般向けとしては、クリスマス商戦前の新しい動きとして、「秋には決め手となる商戦がなかった」（『朝日新聞』10月19日夕刊第9面）ということ、「夏のお中元、行楽シーズンと、十二月のお歳暮、クリスマス商戦との間が抜け落ちており、その間を埋める客寄せ用の記念日がほしかったというわけだ」（『朝日新聞』10月19日夕刊第9面）ということらも商店街、デパートが消費活動を促進させる目的でハロウィーンをはっきりと意識としてビジネスチャンスとして捉えていることも明確である。夏からクリスマスの時期の間にあるのがハロウィーンである。1994年10月に日本でも公開されたのが、ティム・バートン監督『ナイトメア・ビフォア・クリスマス』はハロウィーンブームに一役買っているかもしれない。

ハロウィーンにつきものの仮装も、1980年には日本SF大会にはすでに『スタートレック』や『スターウォーズ』のキャラクターに扮するコスプレイヤーが登場し、コミックマーケットをはじめとする同人雑誌即売会の会場でもマンガやアニメのキャラクターに扮する、いわゆるコスプレ文化が醸成されていた背景も見逃すことはできない（田中 37）。『現代用語の基礎知識』（1993）には「ジュリアナ東京」の解説中に「こちらはボンデージからSF映画のヒロインをイメージしたファッションなど、コスチューム・プレイを楽しむ人種が集まり、アバンギャルドな文化を生み出そうとしているようだ（高橋章子 1083）。」とあり、オタク系のイベントでのコスプレとディスコやクラブでのコスプレがそれぞれ行われ、ハロウィーンの仮装がコスプレ文化の影響を受け、仮装が多様化していくことも想像の範囲であろう。

（3）1997年～2001年：日本のハロウィーン受容状況

日本のハロウィーンは1990年代後半から本格化したとする考え方がある。

日本では1990年代後半まで、ハロウィーンは「縁遠い外国の行事」にすぎなかった。ファンシーグッズ・キャラクターグッズを扱う「キディランド原宿店」では1970年代からハロウィーングッズを販売し、1973年には原宿でパレードを開催したが、顧客や参加者は在日外国人が主だった（飯倉 4）。

2018年10月19日の『朝日新聞』でも「日本でも1990年代後半から若者や子育て世代を中心に盛り上がり、2010年前後からメーカーや小売り各社が商戦を本格化させた」と記述があるが、日本でハロウィーンを定着させ、その認知度を一気に押し上げたのは1997年10月31日限定で行われた東京ディズニーランド（TDL）のディズニー・ハッピー・ハロウィーンである。また、同時期に地域活性化の名のもとに実施されたのがカワサキハロウィーンである。TDLのディズニー・ハッピー・ハロウィーンは子どもが仮装OKのもので、1997

年～1999年までは10月31日限定であったが、2000年～2001年は10月1日～10月31日の間が子どもだけだが、仮装OKの期間が延長された。一方、カワサキハロウィン是一定の条件をあるにせよ、子どもだけでなく、おとなも仮装できる機会となった。当初は川崎市が主催していたが、地元チッタエンタテイメントが運営するようになると、映画や音楽を大音量で流しながら踊る、レイプが大きな特徴である。大人の仮装ハロウィンという点ではカワサキハロウィンは全国的にも大規模に実施された先駆けとも言えるかもしれない。

1991年と1992年にJR山手線内での騒動と同様にハロウィーンで仮装した外国人が大騒ぎした報道が1997年にも見られた。いずれも新宿～渋谷間である。人数も『産経新聞』（1997年11月2日）によれば、300人とある。直接関係があるかはわからないが、このころは「団塊ジュニアの男子たちによるチーマー文化も全盛期」（原田b 63）を迎え、「ストリート文化と結びついて都会的でファッショナブルな印象」（原田b 63）もあり、渋谷センター街はこうしたチーマー文化とストリート文化が象徴ともなった。

渋谷文化の影響は渋谷界限だけに留まらず、日本中に広がっていきました。当時はネットがそれほど普及しておらず、テレビなどのマスメディアの影響力がまだまだ圧倒的だったのです（原田b 67）。

ハロウィーンとは関係ないが、渋谷に人を集める大きなイベントとしては2001年12月31日に行われたスクランブル交差点前のQフロント大画面を使用したカウントダウンイベントが開催されたことは注目しておきたい。

これまでのハロウィーンにおける騒動は外国人を中心に山手線の車内で起こっており、渋谷センター街ではないことだ。六本木などのディスコやクラブなどでパーティが開かれその流れで電車に乗り込み大騒ぎしたと背景がありそうだ。

（4）2002年～2011年：日本のハロウィーン受容状況

TDLのディズニー・ハッピー・ハロウィンも子ども向けから大人に方向を変えたのは、2002年である。

…画期的だったのは2002年、仮装したゲストの受け入れイベントの開始である。これも当初は10月31日限定であったが、翌年からDHの全期間に拡大された。ディズニー・キャラクターに扮してランドを楽しむという「ハロウィーンならではの楽しみ方」が、イベントを軸として浸透していったのである。2009年からは東京ディズニーシーでもハロウィーン・イベントを開始、期間限定のグッズ・フード・イベント等のリリースも毎年行われている。ハロウィーンの「ライトを恐さ・おどろおどろしさ」の楽しさを発信

したの DH は、ハロウィーンのイメージを定着させたと言っていい（飯倉 6）。

DH はディズニー・ハッピー・ハロウィンの略である。大人向けのハロウィーンには怖いハロウィーンも新たに加わったということになる。この怖いハロウィーンはコスプレなどに反映されるようになる。TDL の動きは大人向けのハロウィーンに拍車をかけることになる。TDL はメディアへの露出も多く、こうした大人ハロウィーンはこれまでディスコやクラブといった夜の限られたイベントからさらに広く受け入れる土壌を加速化させた。2003 年 10 月には ROPPONGI HILLS HALLOWEEN も開催されることになる。TDL は 2005 年には大人のパーク内の仮装を 31 日だけであったものを 3 日間に延長した。博報堂ブランドデザイン若者研究所リーダーを務めた原田曜平 (b.1977) の『パリピ経済 パーティーピープルが市場を動かす』（2016）では興味深い指摘がある。

ハロウィンを流行らせたのは誰か?その黒幕は、「パリピ」と呼ばれる若者たちです。彼らが若者の間でトレンドセッター(流行の仕掛け人)になっているのです。パリピとはパーティーピープル (parry people) の略。パーティーピープル→パーリーピーポー→パリピ。その名の通り、パーティーやクラブイベントに代表されるような、賑やかでキラキラした集まりに参加して大騒ぎするのが大好きな若者たちのことを指します。

パリピは都内の大学生や若手社会人を中心とした、高校生から 20 代後半くらいまでの若者たちで構成されています。彼らは新しいこと、面白そうなこと、派手なことに対する態度が非常に高く、友人が非常に多いのも特徴です（原田 a 8-9）。

また、「日本では 2010 年ごろから、仮装して「非日常」を楽しむ意味合いで人気が高まった」⁽²⁹⁾ との指摘もある。

室作によれば、2010 年にはハロウィーンに対するイメージを次のように述べている。

…日本ではハロウィーンが広く認知されるようになったのはいつ頃からなのか。マイコムのアンケートデータベースサービス「MyEL (ミエル)」では、2008 年から継続的にハロウィーン調査を実施しているが、それによれば、12 年頃を境にして、ハロウィーンの認知が一気に高まり、そのイメージが明確に変わってきた報告している。調査を始めた 08 年はハロウィーンに対する印象が薄く、10 年になると、テーマパークでのイベントやスーパー店頭で見かけるハロウィーン用の限定商品に興味を持たれ始めるものの、大きなムーブメントには至っていない（室作 136）。

2011 年 3 月 11 日の宮城県牡鹿半島の東南東沖を震源とする東日本大震災は津波と福島第一原子力発電所事故で、その被害はまさに東日本全体に広がった。特に東京では電力不足に伴う計画停電なども行われた。この震災を受けて国内、特に東日本地域では自粛ムー

ドが長らく続いた。しかし、この自粛ムードを打ち破るかのようにハロウィーンの時期に渋谷センター街にコスプレの集団が現れたという。センター街の飲食店への取材内容がある。

仮装集団が練り歩くようになったのは、確かに11年ですね。東日本大震災のあった年なので記録に残っています。震災の自粛ムードが明けてきたなあ実感したんです。とはいえ当時はそこまでの規模ではなく、今のようにセンター街が埋め尽くされるようになったのは翌12年だったかな⁽³⁰⁾。

ハロウィーンとは関係ないが、渋谷、特にスクランブル交差点が注目を集めたのは2002年の日韓ワールドカップで、6月9日グループHの日本VSロシア戦後、若者たちがスクランブル交差点を渡る際にすれ違いざまにハッチしたハイタッチ現象が起きた。渋谷ハロウィーンについて考えるにはスクランブル交差点でのハイタッチ現象は、渋谷に若者が集まる象徴としてその背景としては重要である。しかし、これが直接、渋谷ハロウィーンに結びついたわけではない。しかも、2002年以降継続してハイタッチが行われたわけでもないようだ。本格的にこのスクランブル交差点でのハッチ現象は2010年の南アフリカワールドカップあたりからだろう（レジュー 189-190）。日本チームの活躍とリンクすることになる。

2010年にはスクランブル交差点が注目を浴びるとイベントでもないのに、カウントダウンで人が集まるようになった。最初は外国人が多かったようだ（高久 311）。そして2011年にはFOREVER21がカウントダウンイベントを行ったこともあってか、同様にスクランブル交差点で自然発生的にカウントダウンが起った。周囲に人を集めるイベントがあっただけに自然発生的に起きたことに違いないが、その大きな要因は渋谷自体にあったことになる。

大騒動になる渋谷ハロウィーンの予兆が2010年にあったのではないだろうか。それは第1に6月のサッカーの南アフリカワールドカップのスクランブル交差点でのハイタッチムーブメント、12月の突如として起きたカウントダウンである。この年の新聞記事ではセンター街でのハロウィーンを掲載しているものは特に見当たらなかったが、だからと言ってセンター街でのハロウィーンが皆無というわけではないだろう。記事にするほどでもない程度に、特にコスプレなどの目立った行動様式をとっていなかったかもしれない。2009年にもツイッターなどでも「渋谷は仮装した人がいっぱいいたようです」⁽³¹⁾とあり、人出はあったようだ。しかし、2011年の東日本大震災により停滞ムードであった年だけに、騒ぐことに抑制がかかっていたものの、一定数の若者がセンター街に繰り出していたようだ。

(5) 2012 年～2019 年：日本のハロウィーン受容状況

東日本震災後の 2012 年には SNS などによりハロウィーンの認知がさらに高まったという。

...12 年になると「ハロウィン＝シェアするイベント」の側面が見み始める。「仮装した写真を SNS（ソーシャルネットワーク）などにアップする」「友達が仮装の写真をアップしていた」といった発言が目立つようになってきた。また、限定商品やイベントも定着し始め、本来の意味はさておきハロウィンというイベントの認知度がいよいよ高まっていく。13 年以降は、ハロウィンの盛り上げりがテレビなどさまざまなメディアで広く伝えられたた、「ハロウィン＝みんなで盛り上がるイベント」とイメージされるようになった（室作 136）。

関東地区では特に 2011 年は計画停電の影響もあったが、5 月頃までは自粛ムードがあったが、徐々に消費行動等が高まったきた時期でもある。SNS の影響も大きく、震災の様子もそうであるが、マスメディアとは異なり、個人が発信する情報はこれまでマスメディアが取り上げなかった内容もあり、これに触発された若者もいたことだろう。

たとえば、ハロウィンに仮装した若者が渋谷に自然と集まったり、ライブやフェスで盛り上がったりするなど、そのとき、その場にいないと味わえないライブ感を消費することが他人との差別化につながると、消費者は考えるようになった。いずれの消費もコトの体験に留まらず、消費者が他人と一緒に生み出すトキ（ライブ感）に主体的に参加する点が従来のコト消費と異なるといえるだろう。SNS の普及で他人の経験を疑似体験しやすくなったことで、より希少価値のある「そのとき、そこだけ」という点に人々が価値を見出しているといえるのかもしれない（廣瀬 125）。

2012 年は「日本のハロウィンバカ騒ぎの歴史 2012 年に一気に爆発、背景に人気アーティスト MV も」⁽³²⁾ とあるように、きやりーばみゅばみゅ『ファッションモンスター』の影響を指摘するものもある。

筆者がこの時期注目したいのは 2013 年 9 月の 2020 東京オリンピックの招致決定である。

2013 年を起点とする見方とは、2013 年 9 月 7 日（日本時間 8 日）、プエノスアイレスでの国際オリンピック委員会（IOC）総会で東京 2020 年夏季オリンピック・パラリンピックの開催決定が発表されたことを一つの契機とみなすことだ。2011 年の東日本大震災後、日本の復興の象徴となる国際的な大イベントになるからだ。日本全体が盛り上げる大きな契機としても大きな役割がある。2011 年以後、渋谷は再開発が始まり、2012 年 4 月

に渋谷ヒカリエがオープン、2013年3月に東急東横線と東京メトロ副都心線との直通運転が開始され、2019年11月に渋谷スクランブルスクエア（東棟）がオープンし、2027年までに大きく変貌する（佐々木 e 23-24）。

2013年はこの意味で渋谷が注目を浴びる要因、また渋谷自身が世界に向けてさらにアピールしようという動きが加速して来たとも言える。2013年ごろから渋谷駅やセンター街周辺ではハロウィーンを楽しむ若者が滞留し始めたとの指摘もある（飯倉 9）。

2014年は渋谷ハロウィーンは大きく変わってきた。これは周辺の事情もあるかもしれない。少し時期は早いだが9月には渋谷ねぶた祭りが渋谷センター街で開催されるようになった。さらに、2014年10月より池袋ハロウィンコスプレフェス、六本木ハロウィンなど大きなイベントが開催され、継続している。10月26日には東急東横線の車内（元住吉→元町・中華街→渋谷）で仮装コンテストというSHIBUYA 大人ハロウィンの催しが開催された。

六本木が荒れていたという記事も『朝日新聞』（2014年10月25日夕刊第1面）との記事もあるが、渋谷にコスプレした若者が予想以上に多く繰り出していたこと（今井 288）が、『朝日新聞』（2014年11月1日朝刊第35面）でも取り上げられている。

2015年になると。ハロウィーンを前の9月にきゃりーぱみゅぱみゅ『Party Night Crazy ぱんぷきんお逆襲』のリリースされ、2回目を迎えた六本木ハロウィンの開催され、仮装パレードの参加者3000人、ギャラリーも約8万人集めるなど⁽³³⁾、首都圏では各地でハロウィーンイベントが開催（『朝日新聞』2015年10月25日朝刊第33面）されていることが報道された。2015年12月には渋谷区が中心となり、渋谷カウントダウン「YOU MAKE SHIBUYA COUNTDOWN」が開催された。このカウントダウンは渋谷区商店会連合会なども協力して大々的に行われた。なお、2015年4月には渋谷区に長谷部健区長が就任（第1期）したことも付け加えておきたい。2014年に渋谷センター街にハロウィーン時期に若者が集まることが認識されていたが、2015年はむしろ渋谷の周辺ではさらにハロウィーンに人出で集まるイベントなどが継続的に行われている。この動きはハロウィーンだけでなく、カウントダウンでもスクランブル交差点は象徴的な役割を果たすことになる。

2016年のハロウィーンの市場規模を受けて、「ハロウィーン文化の定着は、その商業規模に対して最近のことなのだ」（飯倉 3）とあるように、定着にはビジネスの影響が大きい。日本記念日協会・記念日文化研究所発表のハロウィーンの推計市場規模によれば以下の通りである。

2011年	560億円	／	2014年	1,100億円	／	2015年	1,200億円
2016年	1,345億円	／	2017年	1,305億円	／	2018年	1,240億円
2019年	1,155億円						

2016 年は市場規模が最大となった。渋谷でのハロウィーンを考えるにはキーワードとして渋谷センター街、スクランブル交差点がある。位置的にも渋谷駅⇄スクランブル交差点⇄渋谷センター街という流れがある。なかでもスクランブル交差点は世界でも注目されるスポットとなっている（石井 42）。

スクランブル交差点での人の往来はネット上でも簡単に見ることができる。このスクランブル交差点は映画やアニメなどでも象徴的な場所として描かれ、日本だけでなく、世界中に知られるようになった。概ね共通している考え方としては 2002 年の日韓ワールドカップがまず国内での注目の場所になり、その後インターネット等で拡散されていったことが大きいだろう。スクランブル交差点が大きな注目を浴びたのは 2016 年 8 月のリオデジャネイロオリンピックの閉会式での PR 映像のスタートが渋谷スクランブル交差点から始まったことだ。東京からリオデジャネイロを結んだのはスクランブル交差点に安倍元首相が扮したマリオとドラえもんが登場し、ドラえもんがお腹のポケットから土管を取り出し、交差点に突き刺し、マリオがその土管を通じてリオの会場に現れ、衣装と帽子を脱ぎ、安倍元首相が登場したことだ。

自然発生的に起きた渋谷ハロウィーンは渋谷センター街にハロウィーンの時期になると人が集まり、オーバーツーリズムを引き起こしているだけでなく、周辺の店舗への迷惑行為、来訪者同士のトラブルなどが発生している。スクランブル交差点では DJ ポリス出演し、整理にあたったが、これまでにない人出だ。『朝日新聞』（10 月 23 日朝刊第 28 面、27 日夕刊第 10 面）からもその様子を伺うことができる。2016 年 10 月には同じ渋谷でも東口商店街ハロウィン仮装コンテストが開催され、現在まで継続中である。また、12 月には渋谷カウントダウンは継続的に行われた。

2017 年 5 月には渋谷センター街に MEGA ドン・キホーテシブヤ本店もオープンした。新しい動きとしては 8 月に渋谷道玄坂商店街主催により、SHIBUYA109 前で盆踊り大会が開催、12 月には同様に谷カウントダウンが実施された。

2018 年は、まず 6 月のロシアワールドカップの対コロンビア戦のあとにスクランブル交差点でハイタッチムーブメントが起きた。これまでの経緯を見て渋谷区は 10 月 18 日には渋谷駅周辺のコンビニ等に瓶の酒類の販売自粛を要請する動きを見せた。『日本経済新聞』（10 月 24 日朝刊第 35 面）によれば、10 月 23 日に渋谷区長は記者会見で 10 月 31 日午後 6 時から 11 月 1 日まで渋谷駅周辺のコンビニ等に瓶の酒類の販売自粛を要請したことを発表した。こうした要請は初めてのことであった。しかし、2018 年 10 月 27 日～28 日の未明にかけて渋谷センター街で軽トラックが横転させられるトラブルなどが発生した。渋谷区も主催者のいない、自然発生している群集への対応は一応していた。しかし、『朝日新聞』（2018 年 10 月 27 日夕刊第 7 面）によれば、「ハロウィーンは 31 日に楽しむもの」（担当者）という認識がある。31 日がハロウィーン当日であるため、対策の中心はこの日に取ればよいというような認識である事が読みとれる。酒類の販売の自粛を求めたのも 10 月 31

日～11月1日にかけてのことであった。2018年10月27日（土）はハロウィーンに最も近い週末であり、実際に軽トラックが横転させられたのは27日深夜から28日未明のことであった。対策の強化はこの事件が起きてから厳戒態勢となる。2018年だけを見れば区の対応はハロウィーン当日の10月31日の対応で、週末をあまり意識していなかったような印象が強い。

筆者は『東京新聞』（10月31日朝刊第22面）に「主催者なし、ステージのような魔力 渋谷ハロウィーン マナー守って」の中で次のようなコメントを寄せた。

仮装しているので、普段より思い切った行動を取りやすい。そこに集団心理も相まって、突飛な行動に走る人も出てくるのでは」と話す。ここに酒の力が加われば、過激さも増す。

なお、筆者は2018年11月1日の「Nスタ ハロウィーン なぜ渋谷がこんな事に？」（TBS）に出演し、ハロウィーンの市場規模の低下、渋谷のハロウィーンを今後どのようにしたらよいかについて、「参加者は自由と責任、渋谷は組織作りとルール作り」が必要とコメントをまとめた。当然このルール作りは行政が行うことになる。渋谷区はこうした中でも2018年12月のカウントダウンは継続して行っている。

2019年は大きな動きがあった。4月に長谷部渋谷区長が第2期を迎え、6月にハロウィーンの対策の条例を早速制定する動きがあった。

結果的にハロウィーン終了後に長谷部渋谷区長は「来年は顔認証のテクノロジーを活用して参加を有料制にすることやパレード形式、代々木公園への誘導などを検討しているという」（『朝日新聞』2018年11月2日）と語っている。2018年の軽トラック横転を受けて2019年6月に渋谷区は「渋谷駅周辺地域の安全で安心な環境の確保に関する条例」を定めた。この条例には罰則がないため、主催者のいない、自然発生的な渋谷ハロウィーンの対策としてどの程度効力があるのかということについては指摘が多くある（佐々木e 17）。

飲酒の制限等を定めた第6条を見ておきたい。

（公共の場所における飲酒の制限）

第6条 来街者は、次の各号に掲げる期間において、渋谷駅周辺地域のうち、区規則で定める区域内の公共の場所（道路、公園、広場その他公共性を有する場所をいう。以下同じ。）で飲酒をしてはならない。

（1）10月31日及び11月1日並びに10月24日から同月30日までの金曜日、土曜日及び日曜日

(2) 12月31日及び1月1日

(3) 前2号に掲げる期間のほか、区長が特に必要と認める期間

2 区長は、前項の規定による飲酒の制限について、時間帯を限って行うことができる。

第6条ではまさに「飲酒」について地域、時間帯で制限できるようにしていることが最も大きな特徴だろう。

2019年9月20日～11月2日にわたってラグビー・ワールドカップが日本で開催された。10月12日～13日には台風19号の影響もあったものの、10月下旬には「渋谷駅周辺地域の安全で安心な環境の確保に関する条例」が施行されて初めてのハロウィーンを迎えた。渋谷区の条例である以上、まずはその周知が最大の課題であった。『朝日新聞』(11月2日朝刊第27面)では「渋谷ハロウィーン条例後本番 大きなトラブルなし 酔っ払い・ゴミ・けんか減った」とあるが、それでも『読売新聞』(11月1日夕刊第11面)には「ハロウィーン9人逮捕」との事態は発生していたのである。渋谷区は「啓発や警備に1億円以上も投じた」(『朝日新聞』11月2日朝刊第27面)とあり、大きな負担になっていることも事実である。多くの課題を抱えてまま2019年のハロウィーンは終わった。12月にはまた渋谷カウントダウンが行われたが、この時にはYOU MAKE SHIBUYA COUNTDOWN(内閣官房が推進する「beyond2020プログラム」の認証文化プログラム)となっている⁽³⁴⁾。

5 渋谷ハロウィーンの根底にあるもの

渋谷ハロウィーンは日本のハロウィーン受容との関係、ディスコやクラブでのパーティーの関係を無視することはできない。これに加えて若者を集める渋谷の街づくりとも無縁ではない。イベントもないのにハロウィーンに渋谷センター街に自然発生的に集まる若者達を単なる無頼漢として片付けることはできない。子どものためのハロウィーンが大人のハロウィーンに方向転換していくところに渋谷ハロウィーン発生の根底にあるのではないかと思える。

(1) 日本のハロウィーンは子どものためのお菓子の販売や仮装パレードからスタートした。1983年には原宿キデイランド主催により子どものための仮装ハロウィーンが開催され、以降、恵比寿や代官山の商店会などもで実施され継続的に行われている。お菓子の販売はやがて1981年には全国菓子協会によるハロウィーンキャンペーンにつながり、定着していく。

(2) 1978年の日本公開映画『サタデー・ナイト・フィーバー』はディスコフィーバーを巻き起こし、六本木や新宿で若者が集まる大きな流れを作った。

- (3) 1979年の日本公開映画『ハロウィン』、『ゾンビ』、1980年の日本公開映画『13日の金曜日』、『ハロウィンII』などのホラー映画ブームにのり、怖いハロウィーンの土台を形成し、ホラー漫画月刊誌『ハロウィン』が創刊された。
- (4) 1986年あたりからデパート等でハロウィーンのパーティ用ウェアが販売し始め、1989年10月には電車内で仮装パーティ、1991年では船上パーティが開催されるなど、大人が楽しむハロウィーンが開催され、マスコミで取り上げられる。
- (5) 1991年にはサンリオピューロランド、1992年にはナムコ・ワンダーエッグ、1997年からはTDLでハロウィーンイベントが開催されるようになったことで、ハロウィーンを楽しむ気運がしっかりと形成されていく。
- (6) 1991年及び1992年にはJR山手線の電車内や渋谷の駅ホームで仮装した外国人(一部日本人を含む)が数百人単位で騒ぐ騒動が勃発。

渋谷センター街での騒動以前、センター街ではチーマー文化とストリート文化が混在しており、荒れるセンター街の根底があったかもしれない。1997年のTDLでのハロウィーンイベントやカワサキはハロウィン以前にもこうした動きがすでにあった。但しここでの騒動はおもに外国人がメインであり、仮装、日本のオタク文化で言えばコスプレはコミックマーケットが開催されると、こうしたイベントにコスプレイヤーが登場し始め、1990年前半にはすでに定着していた。しかし、こうしたコスプレイヤーとハロウィーンが直接結びついたと考えるのは早計だ。同人誌即売会等のイベントに登場するコスプレイヤーはレベルも高く、撮影会が実施されるが、ハロウィーンの仮装・コスプレはハードルが低くなり、普段こうしたコスプレをする機会のない人でも気軽にできるようなものだが、ディスコやクラブなどのパーティ以外で一般の人が街中でハロウィーンの時期にコスプレをして歩き廻る行動をするまでにはまだ至っていなかったようだ。

- (7) 1997年にTDLの「ディズニー・ハッピー・ハロウィーン」(10月31日限定)で開催、カワサキハロウィンは大人もコスプレでき、川崎の街をパレードできる機会となった。ここを起点に仮装・コスプレするハロウィーンは加速度的に浸透していくことになる。この年にはJR山手線の電車内や新宿駅等で仮装外国人が騒ぐ騒動が起きている。
- (8) 2001年にスクランブル交差点前のQフロントでカウントダウンイベントが開催され、2002年6月の日韓ワールドカップでスクランブル交差点でのハイタッチムーブメントが発生し、スクラブル交差点に若者が集まる場所として印象付けられる契機となる。2002年10月31日はTDLではパーク内における大人の仮装がOK、2005年からは3日間が仮装OKとなるなど、大人のハロウィーンがいよいよ全面に出て来るようになる。こうした動きは2003年10月からはROPPONGI HILLS HALLOWEEN、ハロウィンin多摩センターなどの開催など、子どもも大人もハロ

ィーンを楽しむことが定着する。

- (9) 2009 年の渋谷の様子をツイッターなどで投稿しているものがあり、少なくとも 2009 年に渋谷駅周辺に仮装した者を含め人出があったということがわかる。渋谷ハロウィーンの兆候がここに見ることができる。当然のことながら、何かハロウィーンのイベントがあつて集まってきたわけではない。

2010 年以降は渋谷センター街にもコスプレした者たちがハロウィーンの時期に現れていたようだが、問題視にするようなことはなかったようだ。過去の回想を見ても 2011 年の東日本大震災以前以前にもコスプレを見かけたといった言及はあるものの、2014 年のような騒動にはなっていない。

この時期の渋谷ハロウィーンは一定数の若者が渋谷にはいたものの、オーバーツーリズムにはなっていないこともあり、問題視もされなかった。はっきりしていることは子どものためのハロウィーンの流れとは異なり、大人のハロウィーンの流れが表面化したということだろう。2010 年頃からパリ系の若者が集まっていた。ではなぜ渋谷かということについては、考えられる理由は 2 つある。

第 1 は何の目的もなく渋谷に集まる。飲み会やパーティなどの場所で集まりやすいところを選んだ結果渋谷になった。待ち合わせは渋谷ハチ公前はよくあること。1991 年 2 月にリニューアルオープンしたドクタージーカンズ（レストラン＋イベントスペース）では開始時期は不明であるが、クリスマスやハロウィーンパーティを開催していることもあり、渋谷のディスコ、クラブ等でハロウィーンパーティが開催され、一定数がそのまま渋谷に滞留した可能性がある。第 2 はハロウィーンパーティが新宿、六本木などでディスコやクラブで開催され、渋谷へ流れてくるといふもの。2003 年からは ROPONGI HILLS HALLOWEEN が開催されており、一定数がそのまま渋谷に流れている可能性がある。1991 年、1992 年、1997 年の山手線の車内や新宿駅・渋谷駅のホームでの騒動からもその一旦が伺える。

2011 年以降の流れは 2018 年まで加速度的に渋谷センター街へ若者が集中していく。特に 2013 年以降は渋谷ハロウィーンの様子がメディアで広く取り上げられるようになり（室作 136）、この状況を若者を知ることとなったと共に、SNS での投稿によりさらに広がりを見せた。2012 年の状況は一気に高まったことが報道等でも明らかだ。2013 年は東急東横線と東京メトロ都心線が直通運転となったこともあり、渋谷への集中はさらに高まった。2014 年になると池袋ハロウィンコスプレフェスも始まり、昼間は池袋、夜は渋谷といった流れもあったかもしれない。コスプレする人達も回遊して渋谷の夜に集まって来た可能性も捨てきれない状況がある。ここにパーティ帰りの若者、単に盛り上がりたい人たちが集まり、オーバーツーリズムが発生し、酒の影響を受けた人達が騒動起こすことも生じて来た。2014 年～2017 年まで予兆があったものの、大きな対策のないまま 2018 年を迎え、軽トラック横転事件の発生となった。

この間も渋谷カウントダウンは継続的に行われ、さらに 2016 年 8 月にはリオデジャネイロオリンピックの閉会式での PR 映像のスタートが渋谷スクランブル交差点から始まったことも、さらにスクランブル交差点に注目を集めた結果となった。

6 神聖性を持たないイベントの行く末

日本に起源をもたないハロウィーンには神聖性を感じる人はほとんどいないだろう。そのため単なるイベントのひとつとして捉えることになる。

…確かに伝統的なイベントなどはハレの出来事として継承されてきたけれども、豊かな大衆消費社会の出現は、すでに日常性のハレを持ちこんでしまっているのだ。毎日がハレなのである。都市がハレなのである。こうしてとしがイベント化し、日常がイベント化した。その結果、現代社会ではハレとケの区別が意味をなさなくなっている。

このような社会環境でイベントを論じるときに、ハレとケのステレオタイプの発想はもはや通用しない（茶谷 26-27）。

若者は楽しく騒げる場集まるのである。

パリピは「楽しく騒げる場」「友人を集める理由」として、ハロウィンを輸入し、自分たちなりにアレンジしていきました（原田 a 11）。

非日常を求めてハロウィーンの時期に渋谷を訪れる若者が多いが、この非日常も過度になり、周囲へ被害を与えるようになれば、その非日常に対して現実的な対応をせざるを得なくなり、日常性へ戻すことになる。

非日常時空への過度の傾斜は、むしろ、私たちの日常環境を貧しくしている。日常性こそ、さらに魅力的にならなければならないのだ。いまこそ、イベントに日常性というサステイナブルな概念をしっかりと導入すべき時期にきているのではないか（茶谷 27）。

荒れるハロウィーンに対して条例が施行せれるようになったことはまさにサステイナブルになるということになるが、それがふさわしい姿なのかどうかは難しいところだ。地域のお祭りは少子高齢社会の影響を受け、後継者の問題もあろう。また、若者が地元の行事になかなか参加しにくい状況がある。行事に積極的に参加するような中学高校生は部活動にも積極的に取り組んでいるだろう。

渋谷は日常生活の延長であるものの、ハロウィーンの時期にコスプレして渋谷の街を闊

歩するのは非日常時空となる。しかし、折角の非日常時空も犯罪まがいの行動により日常の空間に戻されることになった。飲酒等により一般公道で統制の効かなくなった群衆は、条例の制定により一時的に非日常化して空間を失うことになった。

エピローグ

渋谷ハロウィーンは自然発生的に起きるとして捉えられているが、時系列からみると、まずファッション等により渋谷に若者を集めることが、渋谷の街づくりの根底にあったことがわかる。さらにハロウィーンが知られるようになると商店街や地域の活性化等によりイベントとして、またハロウィーングッズなどやハロウィーン用のお菓子などの販売が積極的に行われるようになった。しかし「イベントが私たちの周囲を取り囲むと、世の中の事象がやたらと操作的になることだ。あるいは、なんでもカネに換算するという風潮を助長することだ」（茶谷 112）とあるようにハロウィーンもまた利用された。子ども向けのハロウィーンとしてお菓子の販売が始まり、大人向けのハロウィーン用としてコスプレ衣装の販売、パーティ、コスプレ大会などの開催へと発展する。

「日本なりの楽しみ方」こそがコスプレの一般化と SNS での発信の拡大であった。それまで限られたスペースでのみ活動していたコスプレイヤーの一部はハロウィーンを「コスプレで町中を歩いても許される日」ととらえ、またハロウィーンを理由として、いままでコスプレに踏み切れなかった層からの参加者も増えていった（飯倉 7）。

ハロウィン当日、若者たちは渋谷や六本木など都心の繁華街を集団で練り歩き、スマホで写真を撮り合って、SNS にこぞって投稿。飲食店もそれを見込んでスペシャルメニューやパーティープランを設定しています（原田 a 11）。

渋谷ハロウィーンの発生の根底には子ども向けハロウィーンで蓄積された商業活動があるが、大人向けハロウィーンはこれとは別にディスコやクラブでのハロウィーンパーティの開催、これにオタク文化で蓄積されたコスプレ文化が一般の人までも広がりその土壌が形成された。渋谷に自然発生的に集中して若者が集まるのはサッカーワールドカップでのスクランブル交差点でのハイタッチムーブメントが象徴とされるが、渋谷区自体がカウントダウンイベントも開催していた背景がある。渋谷周辺で行われていたハロウィーンのコスプレイベントやハロウィーンパーティを終了してから結局、夜に渋谷終結するような構図になっていった。そこへメディアや SNS の影響を受け、自分もハロウィーンを渋谷センター街で感じたい、そこならコスプレしても目立たないから自分でもできるのではないか、と思う人たちが集まってくることがひとつの現象にまで昇華したのが 2018 年ではなかっただろうか。

注

- (1) 「備考」の内容はおもに佐々木隆『「ハロウィーン」とは何か』(後編、武蔵野学院大学佐々木隆研究室、2021年4月)とディスコの開店状況(2000年まで)は「[open/close] ー20世紀日本クラブシーン年表／開閉編ー」(<http://radiodaze.g2.xrea.com/CLUB00.htm> 2024年11月10日アクセス)の内容を反映させた。
- (2) 首都圏情報ネタドリ!「ハロウィーン 渋谷になぜ集まる?いつから?過去に事件も2023年の動きは」(2023年10月27日)
<https://www.nhk.or.jp/shutoken/wr/20231027a.html> (2024年11月10日アクセス)
- (3) キディランド「原宿ハロウィーンパレードについて」
<https://www.value-press.com/pressrelease/30185> (2020年8月15日アクセス)
- (4) 「日本ではいつから流行り始めた?」
<https://www.ozmall.co.jp/halloween/article/35606/> (2024年11月7日アクセス)
- (5) 『コスプレ天国』(GAME遊Ⅱ特別編集、リイド社、1995年7月)、p.54.
- (6) 「ティム・バートン ナイトメアー・ビフォア・クリスマス」
<https://www.disneyplus.com/ja-jp/movies/tim-burtons-the-nightmare-before-christmas/5GjwOj5Rkpz2> (2024年11月6日アクセス)
- (7) 『コスプレ天国』(GAME遊Ⅱ特別編集、リイド社、1995年7月)、p.4.
- (8) 原田曜平「渋谷ハロウィンの消滅」(2024-11-01)
<https://ameblo.jp/yohei-harada-official/entry-12873389359.html> (2024年11月16日アクセス)
- (9) 「日本でのハロウィーン」
<https://www.asahi.com/topics/word/%E3%83%8F%E3%83%AD%E3%82%A6%E3%82%A3%E3%83%BC%E3%83%B3.html> (2024年11月1日アクセス)
- (10) 一般社団法人日本記念日協会記念日文化研究所「2015年の「ハロウィン」の推計市場規模は前年比約11%増の1220億円」
<http://www.kinenbilabo.jp/?p=406> (2020年8月20日アクセス)
- (11) 「コスプレバカのから騒ぎ ハロウィン 悪習の「生みの親」出てこい!」(『週刊ポスト』、第54巻第36号、小学館、2022年11月、p.50.)
- (12) 「日本のハロウィンバカ騒ぎの歴史 2012年に一気に爆発、背景に人気アーティストのMVも」(週刊ポスト、2022年11月7日)
https://www.news-postseven.com/archives/20221107_1810007.html?DETAIL
(2024年11月1日アクセス)
上記のもとの記事「コスプレバカのから騒ぎ ハロウィン 悪習の「生みの親」出てこ

- い！」(『週刊ポスト』、第54巻第36号、小学館、2022年11月)、p.50.
- (13)「コスプレバカのから騒ぎ ハロウィン 悪習の「生みの親」出てこい！」(『週刊ポスト』、第54巻第36号、小学館、2022年11月)、p.50.
- (14)「東京 street!第55回 ハロウィンの六本木」(『創』第42巻第10号、12月号、2012年11月)、pp.18-19.
- (15)一般社団法人日本記念日協会記念日文化研究所「2016年の「ハロウィン」の推計市場規模は前年比約10%増の約1345億円。」
<http://www.kinenbilabo.jp/?p=470> (2020年8月20日アクセス)
- (16)「盛り上がるハロウィン 仮装が溢れる渋谷に警察出動」(2014.11.01)
<https://www.fashionsnap.com/article/2014-11-01/halloween-shibuya/> (2024年11月4日アクセス)
- (17) Ditto.
- (18)一般社団法人日本記念日協会記念日文化研究所「2015年の「ハロウィン」の推計市場規模は前年比約11%増の1220億円。」
<https://www.kinenbilabo.jp/?p=406> (2020年8月20日アクセス)
- (19)一般社団法人日本記念日協会記念日文化研究所「2015年の「ハロウィン」の推計市場規模は前年比約11%増の1220億円。」
<https://www.kinenbilabo.jp/?p=406> (2023年11月13日アクセス)
- (20)「大人は眉をひそめる『ハロウィン』バカ騒ぎをどうしてきましょう！」(『週刊新潮』第60巻第42号、新潮社、2015年10月)、pp.136-138.
- (21)一般社団法人日本記念日協会記念日文化研究所「2016年の「ハロウィン」の推計市場規模は前年比約10%増の約1345億円。」
<https://www.kinenbilabo.jp/?p=470> (2020年8月20日アクセス)
- (22)一般社団法人日本記念日協会記念日文化研究所「2017年の「ハロウィン」の推計市場規模は前年比約3%減の約1305億円。」
<http://www.kinenbilabo.jp/?p=607> (2020年8月20日アクセス)
- (23)畑中章宏「関東人が知らない『大阪ハロウィン』～渋谷とはココが決定的に違う」(2017年10月31日) <https://gendai.ismedia.jp/articles/-/53370?page=2> (2020年11月3日アクセス)
- (24)一般社団法人日本記念日協会記念日文化研究所「2018年の「ハロウィン」の推計市場規模は前年比約5%減の約1240億円。」
<http://www.kinenbilabo.jp/?p=719> (2020年8月20日アクセス)
- (25)「『YOU MAKE SHIBUYA COUNTDOWN』における実証への参加について」(2018年12月28日)
<https://shi-ctc.jp/contents/%E6%B8%8B%E8%B0%B7%E3%82%AB%E3%82%A6%E3%83%B3%E3%83%88%E3%83%80%E3%82%A6%E3%83%B3%E5%AF%84%E4%>

- BB%98%E5%AE%9F%E8%A8%BC_%E6%A6%82%E8%A6%81.pdf (2024 年 11 月 4 日アクセス)
- (26) 一般社団法人日本記念日協会記念日文化研究所「2019 年の「ハロウィン」の推計市場規模は前年比約 7%減の約 1155 億円。」
<http://www.kinenbilabo.jp/?p=779> (2020 年 8 月 20 日アクセス)
- (27) 渋谷カウントダウン「YOU MAKE SHIBUYA COUNTDOWN 2019-2020」
<https://www.enjoytokyo.jp/event/1547625/> (2024 年 11 月 4 日アクセス)
- (28) ワシントンハイツと原宿キデイランドとの交流については NHK の取材により当時の従業員のインタビューから明らかにになった。『『史上最大』の厳戒態勢 渋谷ハロウィンに潜むリスクとは』(NHK 総合首都圏情報ネタドリ、2023 年 10 月 27 日 19:30~20:00 のうち/10 月 28 日 11:15~11:45 のうち再放送) / 「ハロウィーンの変容」(NHK 総合ニュースウォッチ 9、2024 年 10 月 30 日、21:00~22:00 のうち)。2023 年の番組では筆者も取材に同行し、後日、原宿キデイランドより株式会社気キデイランド社史編集委員会編『夢の宇宙誌 キデイランド 15 年』(株式会社キデイランド、1991 年 3 月)を提供して戴いた。なお、筆者自身も後日「ワシントン・ハイツ」(『むらおさ』第 40 号、むらおさ同人会、2024 年 7 月、pp.12-24)としてまとめた。
- (29) 「日本でのハロウィーン」
<https://www.asahi.com/topics/word/%E3%83%8F%E3%83%AD%E3%82%A6%E3%82%A3%E3%83%BC%E3%83%B3.html> (2024 年 11 月 1 日アクセス)
- (30) 「コスプレバカのから騒ぎ ハロウィン 悪習の「生みの親」出てこい！」(『週刊ポスト』、第 54 巻第 36 号、小学館、2022 年 11 月)、p.50.
- (31) 「渋谷は仮装した人がいっぱいいたようです」(2015-11-01)
<https://www.netlorechase.net/entry/2015/11/01/222209> (2024 年 11 月 16 日アクセス)
 ※動画等は既に削除されている。
- (32) 「日本のハロウィンバカ騒ぎの歴史 2012 年に一気に爆発、背景に人気アーティストの MV も」(週刊ポスト、2022 年 11 月 7 日)
https://www.news-postseven.com/archives/20221107_1810007.html?DETAIL
 (2024 年 11 月 1 日アクセス)
 上記のもとの記事「コスプレバカのから騒ぎ ハロウィン 悪習の「生みの親」出てこい！」(『週刊ポスト』、第 54 巻第 36 号、小学館、2022 年 11 月)、p.50.
- (33) 「大人は眉をひそめる『ハロウィン』バカ騒ぎをどうしてくれよう！」(『週刊新潮』第 60 巻第 42 号、新潮社、2015 年 10 月)、pp.136-138.
- (34) 渋谷カウントダウン「YOU MAKE SHIBUYA COUNTDOWN 2019-2020」
<https://www.enjoytokyo.jp/event/1547625/> (2024 年 11 月 4 日アクセス)

引証資料

- 飯倉義之 (2021). 「ハロウィーンはどこへ行く—現代日本にハロウィーン受容／展開史 約四半世紀の検証から—」、『子どもの文化』、第 53 巻第 10 号、文民教育協会子ども文化研究所。
- 石井研士 (2017). 『渋谷学』、弘文堂。
- 石綿敏雄編 (1990). 『基本外来語辞典』、廣済堂。
- 今井舞 (2014). 「見聞録イマイズム第 34 回 渋谷のハロウィン・ナイト」、『新潮 45』、第 33 巻第 12 号、新潮社。
- 岡田泰男「ハローウィーン | Halloween: Hallowe'en」(2000). 斉藤眞他監修、『【新訂増補】アメリカを知る事典』、平凡社。
- 粕谷千由紀 (1999). 「ハロウィーン Halloween」、亀井俊介編、『アメリカ文化事典』、研究社出版。
- 加藤恭子 (1986). 「アメリカの年中行事」、佐伯彰一他編、『アメリカハンドブック』、三省堂。
- 加藤迪男編 (2006). 『記念日・祝日の事典』、東京堂出版。
- 株式会社気キデイランド社史編纂委員会編 (1991). 『夢の宇宙誌 キデイランド 15 年』、株式会社キデイランド。
- 菊地悠人 (2016). 「ハロウィーン市場膨張 アンチを味方にできるか」、『週刊東洋経済』、第 6693 号、11 月 12 日号、東洋経済新報。
- 小林英美 (2009). 「人気のないハロウィーン」、出口保夫・小林章夫・齊藤貴子編、『21 世紀 イギリス文化を知る事典』、東京書籍。
- 小森真樹 (2018). 「祝日・祭日」、アメリカ学会編、『アメリカ文化事典』、丸善。
- 坂本ひとみ (2003). 「ハロウィーン、万聖節の前夜祭 (Hallowe'en)」、橋口稔編、『イギリス文化事典』、大修館書店。
- 佐々木隆 a (2016). 「ポップカルチャーとしてのハロウィン」、『武蔵野学院大学日本総合研究所研究紀要』第 13 輯、武蔵野学院大学日本総合研究所。
- 佐々木隆 b (2019). 「渋谷のハロウィンとスクランブル交差点」、『むらおさ』、第 30 号、むさおら同人会。
- 佐々木隆 c (2019). 「渋谷ハロウィンから見えるもの」、『日欧比較文化研究』、第 23 号、日欧比較文化研究会。
- 佐々木隆 d (2021). 『「ハロウィーン」とは何か』、後編、武蔵野学院大学佐々木隆研究室。
- 佐々木隆 e (2024). 「渋谷ハロウィーンを振り返る—その変遷と時流—」、『ポップカルチャー・若者文化研究』、第 12 号、ポップカルチャー・若者文化研究会。
- 櫻庭信之 (1985). 「ハロウィーンの夜祭り (Hallowe'en Bonfires)」、安東伸介・小池滋・出口保夫・船戸英夫編、『イギリスの生活と文化事典』、研究社出版。

- 尚学図書編 (1981). 『国語大辞典言泉』、小学館。
- 新村出編 a (1991). 『広辞苑』、岩波書店。
- 新村出編 b (1998). 『広辞苑』、岩波書店。
- 新村出編 c (2008). 『広辞苑』、岩波書店。
- 新村出編 d (2018). 『広辞苑』、岩波書店。
- 新谷尚紀監修 (2009). 『ポプラディア情報館年中行事』、ポプラ社。
- 関口英里 (2001). 『『文化装置』を通してみる現代消費社会のメカニズム—日本における『アメリカ』をめぐる』、大阪大学大学院言語文化研究科、博士論文。
- 鈴木達治 (2023). 「渋谷の印象覆されて悔しい」、『毎日新聞』、10月13日朝刊第9面。
- 高久舞 (2013). 「渋谷の《祝祭》—スクランブル交差点につどう人々—」、石井研士・國學院大學研究開発推進センター渋谷学研究会編、『渋谷の神々』、雄山閣。
- 深川章編『現代用語の基礎知識』
- 高橋章子 (1993). 「ジュリアナ東京」、深川章編、『現代用語の基礎知識』、自由国民社。
- 高橋康也 (1968). 「Halloween、Hallowe'en [hæluú:n]」、成田成寿編『英語歳時記／秋』研究社出版。
- 田中東子 (2009). 「「コスプレという文化」消費でもあり生産でもあり」、成実弘至編、『コスプレする社会』、せりか書房。
- 茶谷幸治 (2003). 『イベント化社会 実践的イベント論序説』、関西学院大学出版会。
- 中澤健 (1949). 「Halloween Party ハロイーン・パーティー」、『時事英語研究』、第4巻第11号、研究社出版。
- 西角井正慶編 (1957). 『年中行事辞典』、東京堂出版。
- 日本英語文化学会編 (2013). 『北米文化事典』、日本英語文化学会。
- 林四郎監修 (2012). 篠崎晃一他編、『例解国語辞典』、三省堂。
- 羽生雄毅 (2016). 『OTAKU エリート』、講談社。
- 原田曜平 a (2016). 『パリピ経済 パーティーピープルが市場を動かす』、新潮社。
- 原田曜平 b (2018). 『平成トレンド史 これから日本人は何を買うのか?』、KADOKAWA。
- 廣瀬涼 (2023). 『あの新入社員はなぜ歓迎会に参加しないのか—Z世代を読み解く』、一般社団法人金融財政事情研究会。
- 平成オタク研究会編 (2018). 『図解 平成オタ 30 年史』、新紀元社。
- ホーリー、ショーン。川村雅也他訳 (1996). 『アメリカ・ポップカルチャー事典』、北星堂書店。
- 本牧の会あゆみ研究会編 (1986). 『本牧のあゆみ』、新本牧地区開発計画局開発部新本牧開発室。
- 増田晶文 (1998). 「コスプレ・マニアックワールド 「コスパ」「コスプレ誌」...コスプレイヤーを取り巻くビジネス事情」、井上裕務編、『私をコミケにつれてって!』、別冊

- 『宝島』、358号、宝島社。
- 松村明編（1988）。『大辞林』、三省堂。
- 松村武雄（1948）。『儀礼及び神話の研究』、培風館。
- レジー（2017）。『夏フェス革命 音楽が変わる、社会が変わる』、blueprint。
- 室作幸江（2016）。「ハロウィン市場のさらなる活性化のカギは「家族」「具体的な行動」「スーパー」」、『DIAMOND Chain Store』、第47巻第16号、ダイヤモンド・リテイルメディア。
- 谷津亮太郎（2022）。「ハロウィンと渋谷の文化—歴史地理的視点」、『子どもの文化』、第54巻第9号、文民教育協会子ども文化研究所。
- 山内輔（2019）。『薄まる集団—再び、渋谷ハロウィン』、松井剛編、『ジャパニーズハロウィンの謎 若者はなぜ渋谷だけで馬鹿騒ぎするのか？』、星海社。
- 山沢かよ子（1958）。「10月の行事—ハロウィーン」、『中学1年英語コース』、第2巻第6号、学習研究社。
- 輪島裕介（2021）。「ダンス都振付けの間 日本のディスコ史から考える」、野澤豊一・川瀬慈編、『音楽の未明からの思考 ミュージッキングを超えて』、アルテスパブリッシング。

